

平成26年度
事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

| | |
|--------------|----|
| 理事長挨拶 | 1 |
| 法人全般 | 2 |
| 岡山理科大学 | 17 |
| 倉敷芸術科学大学 | 28 |
| 千葉科学大学 | 36 |
| 岡山理科大学附属高等学校 | 43 |
| 岡山理科大学附属中学校 | 51 |
| 岡山理科大学専門学校 | 55 |
| 玉野総合医療専門学校 | 60 |

理事長挨拶

学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎



今、教育界は大きな変革のうねりの中にあります。

第2次安倍内閣は、教育再生実行会議を設置しました。平成25年1月24日に開催された初会合では、安倍総理から、「教育再生は経済再生と並ぶ日本国の最重要課題であること」「教育再生の最終的な大目標は、世界トップレベルの学力と規範意識を身に付ける機会を保障すること」「18年の教育基本法改正の理念を実現し、教育の再生に全力を挙げて取り組んでいくこと」等々の提言がなされ、文部科学省においてもそれを受けて種々の取り組みが行われております。

平成26年度事業計画で申し述べましたように、これら一連の教育再生のための改革は、本学園ならびに学園グループにとりまして「追い風」となるものが多々ありました。「理工系教育を始めとした各専門教育による質の高い人材教育」「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業」「イメージ教育」「海外交流協定校との研修、弁論大会等の開催による海外交流」等々の開催によって独自の一貫教育、連携教育システム構築に邁進することができました。さらに、学校教育法の改正に伴い、学園内規程を総点検しました。それぞれに幾つかの課題もあったものの、総合的に見て所期の目的を達成できたと思っております。

私学にとりましては、常に来たるべき時代を予測し、未来社会が求める人材、未来社会に貢献できる人材を育成することが一つの使命であります。そのために、既存学部、学科、コースのあり方を絶えずチェックし、その充実努めることはもちろんのこと、既成の枠に捕らわれない発想のもとに、新しい学部、学科、コースを創出して行くことが求められています。

平成26年4月に、御影インターナショナルこども園を開設、また千葉科学大学に看護学部を開設したのもその一環であり、新しい時代に対応できる体制がまた一つ整ったと自負しております。また、新学部設置については、岡山理科大学教育学部設置認可申請を行いました。

これらの新規事業の展開と教職員の不断努力、さらには、私学として独自の教育研究の場を提供することによって、堅実な科学的素養と専門性を体得させ、併せて調和のとれた人間として信頼に足る人材を明日の社会発展のために送り出すことを念願しています。

一方、本学園における教育研究の成果を地域に還元して地域社会の発展と学術振興に貢献することは、人材育成と並んで学園の果たすべき使命でもありますので、地域の自治体などとの包括協定を積極的に締結し、連携交流を推進して参りました。

さらに、海外の交流協定校との交流や本学園主催の外国人による日本語弁論国際大会等は、教育研究の場における国際交流を通して、国際平和の実現を願っていた創立者の思いを具現化したものでありますので、今後ともより一層の充実を図って参ります。

最後に、本学園は平成23年の創立50周年を契機に、創立者の掲げた建学の理念に込められた私学教育のあるべき姿を「加計学園フィロソフィ」として編纂しました。本学園教職員には、この冊子から創立者の私学教育に掛けた情熱と意気込みを汲み取り、自らのものとして涵養しつつ業務遂行の道しるべとして役立ててほしいと願っております。

平成26年度 事業報告

法人全般

法人としての取組

■学校教育法等の改正への対応

大学のガバナンス強化を目的とした法改正へ対応するため、諸規程整備ワーキンググループを設置し、学則等の諸規程の見直し・総点検を行いました。これにより各設置校から総長を廃止し、学園の総長と位置づけをおこないました。また教授会の位置づけとともに学長の権限を明確にしました。さらに、理事会の方針に基づく大学運営を行うことができる学長を選考するため新たに学園で学長選考規程を整備し、学園が設置する3大学で選考方法を統一しました。

■懲戒関係規程の整備

コンプライアンスの充実・強化を図り、就業規則における懲戒処分の手続きを明確にするため、「学校法人加計学園職員の懲戒処分に関する規程」及び「学校法人加計学園懲戒処分の指針」を平成27年4月施行に向けて整備しました。

■経費の削減

経費の節減を目的として、国内・国外の旅費規程の見直しにより日当・宿泊費等を改定し、平成27年度施行に向け準備を行いました。

■三大学学長会議

岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学の学長及び事務局長等による会議を毎月1回定期的に行い、将来計画の策定や学校教育法の一部改正への学内諸規程の整備、労働契約法の改正に伴う非常勤講師等の問題について意見交換を行いました。

■財務改善会議

各学校の代表者による財務改善会議を開催し、健全な財務体質を目指し開催予定としていましたが、代表者一同を会しての開催はできませんでしたが、進捗状況の確認と意識付けを行いました。

■教職員の人材育成

・事務職員の業務改善

限られた人的資源の有効活用と業務の効率化を図るため、専任・嘱託（再任用者）・契約・派遣・業務委託の業務の切り分けと役割の明確化を検討し、各部署の業務内容の洗い出しを行いました。

・進化する自己点検・勤務考課

事務職員一人ひとりが、業務改善や連携の強化など活力ある組織を目指すべく、各部署・個人ごとに目標を持って取り組みます。今年度はワーキンググループを発足し、考課内容について見直しを行いました。

・私立大学等経常費補助金研修会

補助金説明会の研修を受けた者が講師となり、7月11日（岡山）、14日（倉敷）にて、経常費補助金の知識の向上と制度の高い補助金申請を目指して、昨年度から変更された箇所、提出書類の注意事項等の説明を行いました。

・改正労働契約法への対応

労働契約法の改正による、有期雇用労働者の雇用の在り方について、検討を行いました。

・学校法人会計基準の一部改正

平成27年4月からの学校法人会計基準に対応した計算書の準備を進め、新会計基準に対応した予算書を作成しました。

・職員研修

平成25年度に研修の基盤づくりが一区切りしたことに伴い、新採用者については、マナー研修、社会人としての心得等について研修を行うことで社会人としての自覚、実務に必要な基礎スキルを習得しました。また、部長職以上を対象とした外部講師による「勤務考課」「組織を育てる管理研修」を実施し、管理職としてのコミュニケーションスキルやコーチングスキルについて理解し、組織の目標を達成させるための手法や考え方を習得しました。



| テーマ/タイトル | 研修対象 |
|--|-------------------------|
| 加計学園の職員として | 新採用職員 |
| 新採用者研修会 | 新採用職員 (事務職) |
| 設置校別研修会(大学編) | 学園職員 (主に大学職員) |
| 設置校別研修会(専門学校編) | 学園職員 (主に専門学校職員) |
| セクシャルハラスメントについて | 学園職員 (主に岡山理科大学) |
| セクシャルハラスメントについて | 学園職員 |
| セクシャルハラスメントについて | 岡山理科大学職員 |
| セクシャルハラスメントについて | 岡山理科大学職員 |
| 人を育てるということ～教育者として、経営者として～ | 学園職員 |
| 勤務考課について | 部長職以上 (事務職) |
| 女性の仕事観 | 学園職員 (女性対象) |
| 私立大学等経常費補助金について理解を含めるため(岡山会場) | 学園職員 |
| 私立大学等経常費補助金について理解を含めるため(倉敷会場) | 学園職員 |
| 加計学園職員としての自覚を再度確認するため | 学園職員 御影インターナショナルこども園 |
| English Cafe(英会話研修会) 職員のグローバル化・語学力向上を目指す (月2回開催) | 学園職員 |
| 組織を育てる管理者研修 | 部長職以上 (事務職) |
| スポーツと大学について | 学園職員 |
| 中長期計画 | 学園職員 |
| 異文化理解 | 1年～2年目事務職員 (岡山県内) |
| 領土を如何にして守るのか | 学園職員 |
| 言葉の力「コミュニケーション力が仕事を 変える」 | 学園職員 |
| 加計学園フィロソフィについて | 玉野総合医療専門学校 |

■労務管理

・衛生委員会において教職員の就業上の衛生管理について検討を行い、次年度から義務化されるストレスチェックの導入について計画を行いました。

・リスク管理

自然災害等の緊急時対応リスク、業務リスク等の緊急時対応リスク以外のリスク、コンプライアンスリスク等、危機管理に関する基本方針について研究しました。

・災害対策

防災訓練、救急救命講習等を実施し、自然災害についての認識を深め、救助工具の設置、備蓄食糧等を含め災害に対する備えの充実を図りました。

・任期制、早期退職制導入

教員を対象とした任期制、教職員を対象とした早期退職制の導入について検討を行いました。

■環境整備事業

・省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的に開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。引き続き今年度も原単位(エネルギー使用量を延床面積で除した数値)の1%削減目標を掲げ、節電に努めます。なお、昨年度は1.1%を削減し目標を達成しました。

・環境整備

学生生徒及び職員にとってより快適な学習・研究及び職場環境の提供に努めていきます。

学園中央ロータリー名誉理事長像の下、直径10mの敷地は岡山理科大学及び附属高等学校同窓会からの寄付により、寒椿、芝桜、ヤブラン、マツバギク、タマリユウ等四季折々の草花に囲まれたゾーンに変わりました。

■その他事業

・寄付金事業の強化

今年度に岡山理科大学は創立50周年、千葉科学大学は創立10周年を迎えました。また平成27年度には倉敷芸術科学大学が創立20周年を迎えます。その記念事業を行うにあたり広く寄付金を募集しました。

- ・加計勉基金の創設

創立50周年記念加計勉基金の創設について検討を行いました。

- ・「不滅の法燈」の併設

昭和51年10月に奇跡的に比叡山延暦寺から分灯を受けた「不滅の法燈」を50周年記念館1階に併設しました。「不滅の法燈」は深く広く学問を修めた最澄上人にあやかり「学問の灯」とも呼ばれています。



- ・包括連携協定

地域社会の発展と学術の振興等を目指し、関連機関との包括連携協定を推進します。

7月21日 韓国国立樹木園と「野外における共同研究と教育」に関する調印式が行われました。韓国での植物分類学の研究拠点である、韓国国立樹木園には、植物標本をはじめ、昆虫標本その他の標本を合計すると80万点以上が収納されており、岡山理科大学生物地球学部をはじめとする教育研究に役立てます。

11月10日 広島県安芸太田町と包括連携協定を締結しました。今後は、地域づくり

- ・まちづくりの推進、観光振興や産業振興において連携を図っていきます。

12月2日 津山市と包括連携協定を締結しました。

収益事業

■収益事業部

神戸市東灘区御影に開設した、御影インターナショナルこども園及びM-KISS（学童保育事業）の運営を行うことで、就学前後等のこどもの能力を引き出します。

■御影インターナショナルこども園

設置場所：神戸市東灘区御影2丁目15-27

園長：中西元子

定員：76名（平成26年度）

- ・当該年度の保育理念と目標

本園の教育方針は全人教育にあり、「しっかりとした根拠を持って自分の意見を述べることができ、世界共通語としての英語をツールとして身につけ、外国人とのコミュニケーションを図ることができる子どもを育てる」ことを掲げています。すなわち、次の10の子ども像を目指します。

①Inquirers 探求する子ども

②Knowledgeable 知識のある子ども

③Thinkers 考える子ども

④Communicators コミュニケーションができる子ども

⑤Principled 信念のある子ども

⑥Open-minded 心を開く子ども

⑦Caring 思いやりのある子ども

⑧Risk-takers 挑戦する子ども

⑨Balanced バランスのとれた子ども

⑩Reflective 振り返りができる子ども

- ・当該年度の教育活動計画

0-1歳児については情緒の安定を第一に考え、保護者との連携を密にし、家庭生活とのバランスを取りながら保育を行います。1歳児からは石井式漢字教育を取り入れ、国語教育の礎を養いま

す。2歳児においては前述の保育内容に加え、歌、体操、絵本読み聞かせなどについて積極的に英語を使った保育を行います。3歳児からは英語イマージョンプログラムを開始します。専任の担当者がクラスの達成状況に応じて日々作成したプログラムに沿って、英語ネイティブ教員と日本人保育士がペアでクラスを運営します。卒園時に Cambridge Exam Starters の受験を目指し、達成度を確認しながら進めます。

・地域への貢献

月1回程度、園庭開放日を設け、ハロウィンパーティなどの企画催しを行いました。また、地域の自治会と連携し、老人会との交流を行いました。



■M-K I S S

定 員：30名（小学校1-2年生）

・当該年度の教育目標

①イマージョンを核とした英語教育、石井式漢字教育及び立腰教育によって日本人としてのアイデンティティを持った真の国際人の素養を育てます。

②安心できる放課後支援の場を提供します。

・当該年度の教育活動計画

①英語イマージョンアクティビティ：英語ネイティブ教員と様々なジャンルの活動を英語で行います。

②石井式漢字教育：石井式漢字教育によって、国語教育の礎を養います。

③宿題支援：小学校からの連絡帳を確認し、スタッフが宿題指導にあたります。

④プリント学習：教科書の内容に沿ったプリントを使用して国語と算数の復習を行います。

特命事業

■特命事業推進

学校法人の事業活動の受注及び代行業務を行うことで快適な環境整備、事業の効率化を図り、学生・生徒のインターンシップの場として積極的に活用し、教育研究活動に貢献しました。

国際交流関係

■教育交流協定校との交流プログラム

本学園は現在、国際19カ国70校の海外高等教育機関と教育交流協定を締結し、学生、教職員の交換、留学生やインターンシップ生受け入れなど多彩な国際交流プログラムを行っています。

なお、既に四半世紀継続しているアメリカ、ブラジル学生研修団に対して岡山での最終日に岡山理科大学スカイテラスにてフェアウエルパーティーを開催しました。研修団や地域住民の方々、ホストファミリー、学園関係者など500名以上が参加し、在籍留学生による中国、韓国、スリランカ、ネパール、ベトナムなどの国際屋台が出店しました。

■第四回加計学園杯日本語弁論国際大会

第四回加計学園杯日本語弁論国際大会の地区予選を8～10月に9カ国計13会場にて開催しました。これら予選で選抜された13名の出場者による決勝大会を11月28日(金)に岡山理科大学にて開催し、出場者は「日本語と私」について熱弁し、中国北京市の李億成さんが優勝しました。

■第五回加計杯日本語弁論大会

学園設置校に在籍している留学生による弁論大会の決勝を11月8日(土)に倉敷芸術科学大学にて開催し、中国、韓国、スリランカ、マレーシア、ベトナムなどの国々の留学生が出場し、スピーチを行いました。

■海外支局長会議

5月23日に開催し、千葉科学大学創立10周年記念式典にも参加しました。その他、年に数回海外支局長TV会議を開催し、勉強会・報告会を通じて、海外支局長同士の連携を深め、情報交換を行いました。

本年度より、新たに2名の海外支局長(韓国、パキスタン)と中国総支局長補佐が着任しました。

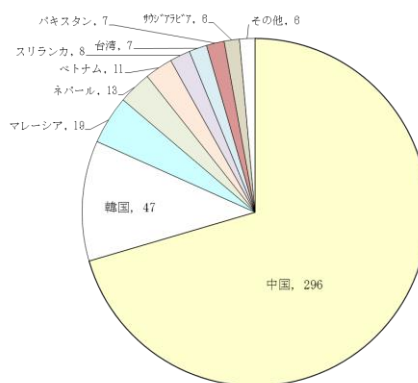
11月27日には平成26年度秋期海外支局長会議を、29日に海外支局長勉強会を開催しました。

■教育交流協定校との交流プログラム

| 国名 | 計画 | 予定 |
|------|---|-----------|
| アメリカ | 受入:ライト大学仕事体験生4名(岡山理科大学) 受入:フィンドリー大学仕事体験生2名(千葉科学大学) | 4~3月 |
| 韓国 | 受入:湖西大学単位互換履修生4名(岡山理科大学3名、倉敷芸術科学大学1名) | 4~3月 |
| 台湾 | 受入:致理技術学院科目等履修生6名(岡山理科大学4名・倉敷芸術科学大学5名) | 4~2月 |
| アメリカ | 受入:フィンドリー大学学生訪日研修団7名 受入:ライト大学学生訪日研修団7名 | 6.30~7.23 |
| ブラジル | 受入:パラナ連邦大学3名・パラナカトリカ大学10名訪日研修団 | 6.30~7.23 |
| 台湾 | 受入:致理技術学院学生研修団21名 | 5.28~6.6 |

| | | |
|------|--|-----------|
| タイ | 受入:泰日工業大学15名 | 7.25~7.29 |
| 韓国 | 受入:江南スカイ学院訪日文化研修団9名 | 7.26~8.5 |
| 韓国 | 受入:慶一学園生徒研修団35名 | 7.28~8.6 |
| ブラジル | 派遣:パラナ連邦大学・パラナカトリカ大学へ学生研修団1名(千葉科大1名) | 8.12~9.5 |
| アメリカ | 派遣:フィンドリー大学へ学生研修団9名(理大3、芸科大3、千葉科大2、芸科大引率1) | 8.12~9.5 |
| アメリカ | 派遣:ライト大学へ学生研修団8名(理大4、芸科大1、千葉科大2、理大大引率1) | 8.13~9.7 |
| 韓国 | 派遣:湖西大学へ学生研修団1名(理大1) | 8.22~8.31 |
| 台湾 | 派遣:致理技術学院へ学生研修団9名(理大4、千葉科大4、千葉科大引率1) | 8.26~9.4 |
| 中国 | 受入:河南城建学院来学者5名 | 10.6~10.8 |
| アメリカ | 受入:ワテル・ランゲージ・アカデミ研修団17名 | 11.11~14 |
| 中国 | 受入:江蘇省無錫堰橋中学研修団43名 | 12.10 |
| 韓国 | 受入:全南女子商業高校生徒研修団17名 | 1.20~1.21 |
| 韓国 | 受入:正明高校生徒研修団22名 | 1.27~1.30 |
| 韓国 | 受入:木洞高校生徒研修団30名 | 2.8~2.11 |

■国別留学生内訳 (平成26年5月1日現在)



総数: 420名

■海外交流協定校（平成27年3月31日現在）

| 国名 | 教育交流協定校 | 校数 |
|----------|--|-------|
| 中国 | 南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院、河南城建学院 | 14校 |
| | （留学生募集に関する提携校） 内蒙古智力引進外語専修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語専修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語専修学院、吉林動画学院、他 | (31校) |
| 韓国 | 慶一学園、金剛学園（永同大学、亨硯高校）、鶴山学園（東ソウル大学）、金龍学園（徳園女子高校、徳園芸術高校）、桂林学園（正明高校）、清錫学園（清州大学）、純心教育財団（純心高校）、湖西学園（湖西大学）、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校、礼ーデザイン高等学校 | 15校 |
| 台湾 | 大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院 | 10校 |
| アメリカ | ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学 | 5校 |
| イギリス | サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学 | 4校 |
| スリランカ | ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バールカウィッダヤーラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール | 4校 |
| ブラジル | パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校 | 3校 |
| オーストリア | ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学 | 2校 |
| シンガポール | ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク | 2校 |
| ベルギー | ブリュッセル自由大学、アントワープ王立美術アカデミー | 2校 |
| タイ | 泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール | 2校 |
| フィリピン | フィリピン国立大学ロスバニョス校、フィリピン日本語文化学院 | 2校 |
| フランス | リヨンI大学 | 1校 |
| カナダ | モホーク大学 | 1校 |
| コスタリカ | コスタリカナショナル大学 | 1校 |
| オーストラリア | アニマルインダストリーズリソースセンター | 1校 |
| コンゴ民主共和国 | 高等技術大学 | 1校 |
| マレーシア | マラ工科大学医学部 | 1校 |
| モンゴール | モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター | 1校 |

組織

4月1日付で、収益事業部を新設しました。
今後、学園の新規事業に対応していきます。

■加計学園理事・監事評議員概況

| 区分 | 定数 | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-----|-------|----|-----|----|
| 理事 | 9～13 | 7 | 3 | 10 |
| 監事 | 2 | | 2 | 2 |
| 評議員 | 23～32 | 28 | 4 | 32 |

(平成26年5月1日現在)

■役員について

平成26年4月1日 : 土井章理事、越宗孝昌理事就任

平成27年3月31日 : 土井章理事退任

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年9月 学校法人加計学園認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年4月 岡山電機工業高等学校開校（全日制） 初代校長に、神崎栄一郎就任
- 昭和39年1月 岡山理科大学設置認可
- 2月 岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校と改称
- 4月 岡山理科大学開学（理学部） 初代学長に、加計勉就任
- 昭和42年4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
岡山理科大学附属高等学校第3代校長として、中尾寿夫就任
- 昭和50年4月 岡山高等建築専門学院設置認可
- 5月 岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制）初代校長に、中尾寿夫就任
- 昭和51年4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校と改称
- 昭和53年4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和55年4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として、片山誠二就任

- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に、加計勉就任
- 昭和59年4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和61年4月 岡山理科大学工学部設置
岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
岡山高等建築専門学校を**岡山理科大学専門学校**と改称
- 平成2年4月 岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任
岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成4年1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長として、加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に、谷口澄夫就任
- 平成7年4月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成9年4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
- 12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成10年4月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に、金政泰弘就任
岡山理科大学附属高等学校第8代校長に、三木輝知就任
岡山理科大学専門学校第3代校長に、村上侑就任
- 平成11年4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に、土井章就任
倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成12年4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更
岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成13年1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に、加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に名称変更
岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任
- 9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成14年4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
岡山理科大学附属高等学校第9代校長として、北尾正幸就任
岡山理科大学専門学校第4代校長として、逢坂一正就任
岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成15年4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）を設置
- 11月 千葉科学大学設置認可
- 平成16年3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
- 4月 岡山理科大学第6代学長に、宮垣嘉也就任
倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
千葉科学大学開学 初代学長に、平野敏右就任
倉敷芸術科学大学専門学校開校 初代校長に、岡本繁通就任
- 平成17年4月 倉敷芸術科学大学第3代学長に、添田喬就任
岡山理科大学附属高等学校第10代校長に、橋爪道彦就任
岡山理科大学附属中学校第2代校長に、新倉正和就任

- 岡山理科大学専門学校第5代校長に、圓堂稔就任
玉野総合医療専門学校第2代校長に、岡田茂就任
- 平成19年4月 倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に、伊藤敏夫就任
- 平成20年4月 岡山理科大学第7代学長に、波田善夫就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科を設置
倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成21年4月 岡山理科大学専門学校第6代校長に、小林正文就任
- 平成22年3月 倉敷芸術科学大学国際教養学部を廃止
- 平成22年4月 千葉科学大学第2代学長に、赤木靖春就任
玉野総合医療専門学校第3代校長に、高井研一就任
倉敷 食と器 専門学校第3代校長に、川上雅之就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
- 平成23年4月 倉敷 食と器 専門学校第4代校長に、亀井秀人就任
10月 倉敷芸術科学大学第4代学長に、唐木英明就任
- 平成24年4月 岡山理科大学附属高等学校第11代校長に、宮垣嘉也就任
岡山理科大学附属中学校第3代校長に、位田隆久就任
岡山理科大学専門学校第7代校長に、村岡正就任
岡山理科大学生物地球学部設置
倉敷芸術科学大学別科に調理師別科、製菓衛生師別科設置
千葉科学大学大学院薬科学研究科を薬学研究科に名称変更、薬学科（6年制）を基礎とした薬学専攻博士課程（4年制一貫）を設置
- 平成24年7月 千葉科学大学大学院薬学研究科について、薬学科（4年制）を基礎とした薬学専攻修士課程を廃止
- 平成25年3月 倉敷 食と器 専門学校閉校
- 平成26年4月 倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン学科をデザイン芸術学科に名称変更
倉敷芸術科学大学生命科学部生命動物科学科を動物生命科学科に名称変更
倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科、産業科学技術学部観光学科、生命科学部健康医療学科募集停止
倉敷芸術科学大学別科 調理師別科、製菓衛生師別科募集停止
千葉科学大学看護学部設置
認可外保育所 御影インターナショナルこども園 開園
倉敷芸術科学大学第5代学長に土井章就任
- 5月 加計学園、中国 河南城建学院と教育交流協定締結
- 7月 加計学園、中国 国立樹木園と野外における共同研究と教育に関する覚書締結
- 10月 岡山理科大学附属高等学校全日制課程教育学科設置認可
- 平成27年3月 倉敷芸術科学大学別科調理師別科、製菓衛生師別科を廃止
千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科を廃止

■設置校概況

平成26年5月1日現在
(単位：人)

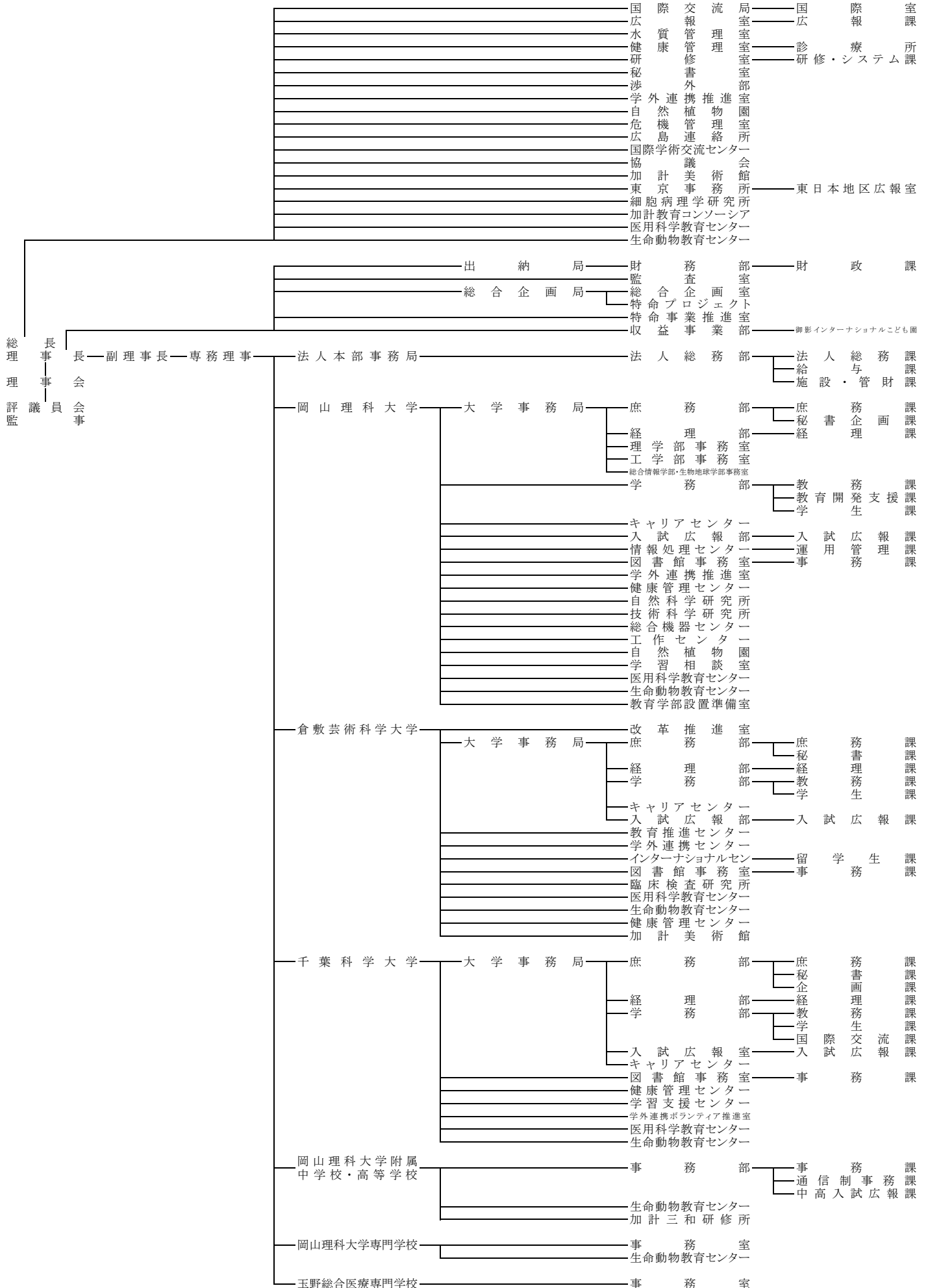
| 区 分 | 合計 | | 教員 | 職員 | 計 |
|--------------------------------------|---------------|---------------|-----|---------------------|-----|
| | 定員 | 現員 | | | |
| 岡山理科大学 (岡山市北区理大町1-1) | 5,504 | 6,173 | 270 | 200 | 470 |
| 大学院 | 384 | 220 | | (本部) 88 (理大) 112 | |
| 理学研究科 | 191 | 115 | | | |
| 工学研究科 | 147 | 74 | | | |
| 総合情報研究科 | 46 | 31 | | | |
| 学部 | 5,120 | 5,953 | | | |
| 理 学 部 | 2,080 | 2,473 | | | |
| 工 学 部 | 2,010 | 2,258 | | | |
| 総合情報学部 | 710 | 846 | | | |
| 生物地球学部 | 320 | 376 | | | |
| 倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640) | 2,042 | 1,569 | 106 | 63 | 169 |
| 大学院 | 126 | 51 | | | |
| 芸術研究科 | 52 | 21 | | | |
| 産業科学技術研究科 | 44 | 23 | | | |
| 人間文化研究科 | 30 | 7 | | | |
| 学部 | 1,796 | 1,508 | | | |
| 芸術学部 | 419 | 342 | | | |
| 産業科学技術学部 | 398 | 209 | | | |
| 生命科学部 | 979 | 957 | | | |
| 大学院 (通信制) | 120 | 8 | | | |
| 芸術研究科 修士課程 | 20 | 2 | | | |
| 産業科学技術研究科 修士課程 | 40 | 0 | | | |
| 人間文化研究科 修士課程 | 60 | 6 | | | |
| 学部(通信教育課程) | 0 | 2 | | | |
| 産業科学技術学部(通信教育課程) | 0 | 2 | | | |
| 千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3) | 2,283 | 1,810 | 119 | 53 | 172 |
| 大学院 | 63 | 29 | | | |
| 薬科学研究科 | 44 | 13 | | | |
| 危機管理学研究科 | 19 | 16 | | | |
| 学部 | 2,220 | 1,781 | | | |
| 薬学部 | 940 | 698 | | | |
| 危機管理学部 | 1,200 | 986 | | | |
| 看護学部 | 80 | 97 | | | |
| 岡山理科大学附属高等学校 (岡山市北区理大町1-1) | 2,100 | 1,382 | 74 | 21 | 95 |
| 全日制 | 1,500 | 1,160 | | | |
| 通信制(1~3年定員:600名) | 600 | 222 | | | |
| 岡山理科大学附属中学校 (岡山市北区理大町1-1) | 240 | 166 | 20 | | 20 |
| 岡山理科大学専門学校 (岡山市北区半田町8-3) | 490 | 392 | 12 | 11 | 23 |
| 工業専門課程(建築) | 120 | 101 | | | |
| 商業実務専門課程(映像情報) | 0 | 0 | | | |
| 文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ドッグ, アグ) | 370 | 291 | | | |
| 玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20) | 560 | 455 | 31 | 8 | 39 |
| 医療専門課程(保健看護, 理学療法, 作業療法) | 480 | 420 | | | |
| 教育・社会福祉専門課程(介護福祉) | 80 | 35 | | | |
| 合 計 | 13,219 | 11,947 | 632 | 356 | 988 |

※別科、専攻科等除く

| 学校法人 加計学園 法人本部 | 収容定員 | 在園者数 | こども園職員 |
|---------------------------|------|------|--------|
| 収益事業 (御影インターナショナルこども園) | 76 | 30 | (5) |

() は本部職員内数

■事務組織図（平成26年5月1日）



財務関係

■資金収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

収入の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|------------|-----------------|
| 学生生徒等納付金収入 | 15,720,354,389 |
| 手数料収入 | 297,713,732 |
| 寄付金収入 | 391,521,102 |
| 補助金収入 | 2,397,900,757 |
| 資産運用収入 | 170,361,466 |
| 資産売却収入 | 120,000 |
| 事業収入 | 177,095,281 |
| 雑収入 | 684,243,573 |
| 借入金等収入 | 2,770,450,000 |
| 前受金収入 | 2,419,458,000 |
| その他の収入 | 2,321,789,610 |
| 資金収入調整勘定 | △ 3,199,060,276 |
| 前年度繰越支払資金 | 20,026,687,008 |
| 計 | 44,178,634,642 |

支出の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------|----------------|
| 人件費支出 | 11,277,425,233 |
| 教育研究経費支出 | 3,785,268,869 |
| 管理経費支出 | 1,688,047,858 |
| 借入金等利息支出 | 101,495,536 |
| 借入金等返済支出 | 1,068,645,000 |
| 施設関係支出 | 3,950,201,208 |
| 設備関係支出 | 548,989,293 |
| 資産運用支出 | 583,639,209 |
| その他の支出 | 2,252,589,934 |
| 資金支出調整勘定 | △ 523,935,397 |
| 次年度繰越支払資金 | 19,446,267,899 |
| 計 | 44,178,634,642 |

■消費収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|----------|----------------|
| 学生生徒等納付金 | 15,720,354,389 |
| 手数料 | 297,713,732 |
| 寄付金 | 471,579,538 |
| 補助金 | 2,397,900,757 |
| 資産運用収入 | 170,361,466 |
| 資産売却差額 | 119,998 |
| 事業収入 | 149,885,218 |
| 雑収入 | 684,243,573 |
| 帰属収入合計 | 19,892,158,671 |
| 基本金組入額合計 | △ 135,813,736 |
| 消費収入の部合計 | 19,756,344,935 |

消費支出の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|--------------|----------------|
| 人件費 | 11,493,054,480 |
| 教育研究経費 | 5,520,737,352 |
| 管理経費 | 2,138,414,249 |
| 借入金等利息 | 101,495,536 |
| 資産処分差額 | 126,983,907 |
| 徴収不能引当金繰入額等 | 14,503,081 |
| 消費支出の部合計 | 19,395,188,605 |
| 当年度消費収入超過額 | 361,156,330 |
| 前年度繰越消費支出超過額 | 14,878,378,881 |
| 基本金取崩額 | 255,674,285 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 14,261,548,266 |

■貸借対照表（平成27年3月31日）

資産の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|----------|----------------|
| 固定資産 | 61,913,185,658 |
| 有形固定資産 | 56,126,263,412 |
| その他の固定資産 | 5,786,922,246 |
| 流動資産 | 21,319,536,270 |
| 資産の部合計 | 83,232,721,928 |

負債の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|--------|----------------|
| 固定負債 | 13,433,252,456 |
| 流動負債 | 4,035,346,261 |
| 負債の部合計 | 17,468,598,717 |

基本金の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|---------|----------------|
| 基本金の部合計 | 80,025,671,477 |

消費収支差額の部 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|------------------------|------------------|
| 翌年度繰越消費支出超過額 | △ 14,261,548,266 |
| 消費収支差額の部合計 | △ 14,261,548,266 |
| 科 目 | 金 額 |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 83,232,721,928 |

■財産目録（平成27年3月31日）

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|-------------|----------------|
| 一資産額 | |
| (一) 基本財産 | 60,718,533,464 |
| 1. 土地 | 15,846,276,024 |
| 借地権 | 388,140,000 |
| 2. 建物 | 25,874,690,133 |
| (1)校舎 | 20,355,563,767 |
| (2)図書館 | 342,273,579 |
| (3)体育館 | 2,226,261,406 |
| (4)寄宿舎 | 361,635,124 |
| (5)倉庫 | 19,841,121 |
| (6)その他 | 2,569,115,136 |
| 3. 建設仮勘定 | 3,437,460,600 |
| 4. 構築物 | 1,142,465,661 |
| 5. 図書 | 6,785,976,875 |
| 6. 教具・校具・備品 | 3,004,666,319 |
| 7. 車両運搬具 | 34,727,800 |
| 8. 積立金 | 2,004,130,052 |
| 9. 特定資産 | 2,200,000,000 |
| (二) 運用財産 | 22,514,188,464 |
| 1. 預金、現金 | 19,446,267,899 |
| 2. 出資金 | 94,859,400 |
| 3. 有価証券 | 960,629,833 |
| 4. 未収金 | 775,786,625 |
| 5. 仮払金 | 14,004,034 |
| 6. 差入保証金 | 125,105,170 |
| 7. 前払金 | 121,092,862 |
| 8. 貯蔵品 | 1,755,017 |
| 9. 収益事業元入金 | 574,687,624 |
| 10. 長期貸付金 | 400,000,000 |
| 合 計 | 83,232,721,928 |
| 二負債額 | |
| 1. 固定負債 | 13,433,252,456 |
| (1)長期借入金 | 9,363,612,000 |
| (2)学校債 | 2,430,000 |
| (3)退職給与引当金 | 4,067,210,456 |
| 2. 流動負債 | 4,035,346,261 |
| (1)短期借入金 | 545,250,000 |
| (2)学校債 | 1,770,000 |
| (3)未払金 | 455,239,036 |
| (4)前受金 | 2,419,458,000 |
| (5)預り金 | 602,796,838 |
| (6)仮受金 | 10,832,387 |
| 合 計 | 17,468,598,717 |

■財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

| 区 分 | | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | |
|---------------------------------|------------|---|--------|--------|--------|--------|
| 分類 | 比 率 | 算式 (×100) | | | | |
| 貸 借 対 照 表 | 消費収支差額構成比率 | $\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$ | △15.9% | △17.0% | △18.3% | △17.1% |
| | 基本金比率 | $\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$ | 88.5% | 89.8% | 89.8% | 88.7% |
| | 固定比率 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$ | 92.6% | 89.7% | 91.0% | 94.1% |
| | 固定長期適合率 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$ | 76.9% | 75.6% | 77.3% | 78.2% |
| | 流動比率 | $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$ | 491.0% | 542.8% | 473.7% | 528.3% |
| | 前受金保有率 | $\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$ | 907.1% | 917.2% | 830.3% | 803.7% |
| | 総負債比率 | $\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$ | 21.6% | 20.1% | 19.9% | 21.0% |
| | 負債率 | $\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$ | 18.8% | 17.3% | 16.9% | 18.1% |
| | 基本金実質組入率 | $\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$ | 73.6% | 74.0% | 73.1% | 72.9% |
| 消 費 収 支 計 算 書 | 人件費比率 | $\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 71.4% | 58.2% | 59.7% | 57.8% |
| | 教育研究経費比率 | $\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 30.4% | 28.8% | 29.3% | 27.8% |
| | 管理経費比率 | $\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 10.0% | 8.6% | 9.5% | 10.8% |
| | 消費支出比率 | $\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 113.3% | 96.6% | 100.6% | 97.5% |
| | 【経常経費依存率】 | $\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$ | 145.5% | 120.6% | 124.8% | 123.4% |
| | 学生生徒等納付金比率 | $\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 77.9% | 80.1% | 80.6% | 79.0% |
| | 寄付金比率 | $\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 1.8% | 0.4% | 0.5% | 2.4% |
| | 補助金比率 | $\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 14.5% | 13.5% | 11.6% | 12.1% |
| | 基本金組入率 | $\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$ | 6.2% | 7.4% | 4.4% | 0.7% |

■国庫補助金等

| 設置校名 | ① | ② | ③ | (単位：千円) | | |
|--------------|-----------|---------|----------|----------|-----------|-----------|
| | 経常費補助金 | 大型機器補助金 | G P等選定事業 | その他国庫補助金 | 地方公共団体補助金 | 合計 |
| 岡山理科大学 | 719,967 | 42,249 | 17,363 | 2,150 | 2,384 | 784,113 |
| 倉敷芸術科学大学 | 347,419 | 24,316 | 23,900 | | 133 | 395,768 |
| 千葉科学大学 | 334,133 | 18,170 | 16,772 | 808 | 419,295 | 789,178 |
| 岡山理科大学附属高等学校 | | | | 5,880 | 335,617 | 341,497 |
| 岡山理科大学附属中学校 | | | | | 63,009 | 63,009 |
| 岡山理科大学専門学校 | | | | | 252 | 252 |
| 玉野総合医療専門学校 | | | | | 24,083 | 24,083 |
| 合計 | 1,401,519 | 84,735 | 58,035 | 8,838 | 844,773 | 2,397,900 |

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

| 設置校等名 | 受託研究 | 共同研究 | 科学研究費補助金 | |
|----------|------|------|----------|-----------|
| | | | 件数 | 補助金額 |
| 岡山理科大学 | 30 件 | 30 件 | 48 件 | 89,903 千円 |
| 理学部 | 13 | 8 | 22 | 48,763 |
| 工学部 | 11 | 16 | 13 | 18,460 |
| 総合情報学部 | | 1 | 8 | 14,170 |
| 生物地球学部 | 3 | 2 | 4 | 7,410 |
| 附属施設 | 3 | 3 | | |
| その他 | | | 1 | 1,100 |
| 倉敷芸術科学大学 | 7 | 5 | 10 | 11,750 |
| 芸術学部 | 3 | 2 | 4 | 3,900 |
| 産業科学技術学部 | 2 | 3 | 3 | 1,690 |
| 生命科学部 | 2 | | 3 | 6,160 |
| 千葉科学大学 | 9 | 10 | 14 | 55,521 |
| 薬学部 | 6 | 10 | 8 | 19,110 |
| 危機管理学部 | 3 | | 4 | 34,071 |
| 看護学部 | | | 2 | 2,340 |
| 合計 | 46 | 45 | 72 | 157,174 |

平成26年度 事業報告

岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は創立50周年を迎え、主事業である新1号館の建設が開始された。18歳人口が減少する中、5年連続で志願者を増加させることができたのは、教職員の努力と共に4万7千人にも及ぶ同窓生の支援等も大きい。この5年間では教員の1/3である83人が退職予定である。大きな変革となる期間であり、次のような5カ年の中期目標を掲げる。

- 1.方針：地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を輝いて迎えるために、傑出し特色を持つ必要がある。その方向は「特色ある研究」とそれに立脚した「充実した教育」であり、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成する。
- 2.研究環境の整備：基盤整備事業への選定など、研究環境の整備は充実しつつあるが、今後とも重点課題として位置づける。これとともに大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を、また、新分野への展開を迅速に行える支援体制を構築する。
- 3.教育の充実：最先端の研究に立脚した高いレベルの専門教育とともに、建学の理念にも示されているように、科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての人格教育が行われなくてはならない。グローバル化をも視野に入れ、カリキュラム構成などの抜本的な改善を行う。
- 4.自己点検システムの実施：昨年度に大学基準協会による認証評価を実施したが、構築したPDCAサイクルを稼働させ、自己点検を実施する。
- 5.社会貢献：岡山理科大学は社会における役割を自覚し、地域貢献事業を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献する。

岡山理科大学 学長 波田善夫

教育の充実

■教育学部の設置

教育学部の設置を平成27年4月に予定していましたが、質の高い教育学部とするため、開設を平成28年度にします。平成27年3月に文部科学省に設置認可と課程認定の申請書類を提出しました。(設置認可申請中)

■生体医工学科の名称変更

生体医工学科は再生医療コースを新設し、再生医療の分野を充実すると同時に、社会の認知度を増し本学科の目的である「人類の健康と福祉に貢献する工学技術者研究者」をより多く養成する為に、生命医療工学科に平成27年度より名称変更します。平成26年4月に文部科学省に名称変更の学則変更届を提出し受理されました。

生体医工学科⇒生命医療工学科

■応用物理学科における専攻の定員変更

応用物理学科では近年物理科学専攻の入学者が多く実態に合わせるため、平成27年度より定員を変更します。平成26年4月に文部科学省に定員変更の学則変更届を提出し受理されました。

物理科学専攻30名⇒40名

医用科学専攻40名⇒30名

■ポートフォリオの検討

学生の教育情報を統合したポートフォリオシステムを導入・構築していくにあたり、既存システム

との連携も踏まえ、関係部署間で具体的な検討を行いました。

■ 3つの方針と実効性

平成25年度は大学全体の3つの方針を定め、全学的な教育改善の方針を整えました。平成26年度は、3つの方針の階層間の関係を確認し、さらに最終的な形として学科のカリキュラムポリシーがシラバスに反映されているかを全科目について点検を行いました。さらにFDを内部質保証に繋げる方策の検討を始めました。

■ FDの充実

FD推進室を中心にFDをより一層充実するための取り組みを行いました。2年前に質問項目を大幅に変更した授業アンケートについては、内容の妥当性と結果の活用方法を検討しました。各年度のFD活動の状況を取りまとめ、年度末に開催されたFD活動報告会において組織単位のFD活動の点検を継続して行いました。昨年度から始まった学生によるFD活動を支援していく体制を整え始めました。

■ 理科教育センターの充実

入学時の大切な時期に、共通教育および専門教育担当教員が連携し、高度な専門教育を理解するために欠かせない物理・化学・生物・生命化学・地学・地球科学の基礎となる講義と実験を開講し、初年次教育の充実を図りました。

■ 教養教育センターの充実

1. B1群においては、大学教育改革に向け、グローバル社会に対応した英語教育の改善・充実を図りました。
2. B2群においては、大学教育改革に向け、科目の系統化を図り、科目群の目標をより明確にしました。
3. キャリア支援科目では、「学びの基礎論」からの積み上げ科目である「地域フィールドスタディ」を開講し、平成25年度私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択され、施設を整備し、学生の「人間力の育成」や地域の生涯学習社会の構築を

図りました。

■ 数学・情報教育センターの充実

多様な数学学力を持った学生ひとりひとりの能力を伸ばすための数学教育を目行いました。

■ 科学ボランティアセンターの充実

本学の特色を生かした地域貢献型能動的学修プログラムである科学ボランティアリーダー養成事業を引き続き推進しました。平成26年度は特に附属中・高との連携を強化しました。

■ 教職・学芸員センターの充実

平成25年度の教員採用試験現役正規合格者は延べ23名、既卒者を含む正規合格者は延べ89名でした。平成26年度も教職ビデオ講座、教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。

研究の充実

■ 文部科学省等補助金事業

1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(1) 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の4年目の事業を行いました。

地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることで、このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1 : 新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2 : 鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度・高精度化、及びその応用

テーマ3 : 新たなルミネッセンス手法による

隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃 変成過程の定量評価

研究者数：10名

代表者：理学部 応用物理学科 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

(2) QOL向上を目指す支援技術のイノベーション 研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の3年目の事業を行いました。また、中間報告を提出いたしました。

生活支援機器や環境改善によりQOL(Quality of life 生活の質)を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成します。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

(3) 申請計画

平成26年度は「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に新規2件を申請しましたが、不採択でした。

2. 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制 整備事業

取組名称：産業界との連携による中国・四国地域
人材育成事業【テーマA】

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としています。

事業期間3年計画の最終年度の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度（3年間）平成26年度より、新たに【テーマB】の取組が追加され、採択されました。

事業期間2年計画の1年目の取り組みを行いました。

取組名称：中国・四国圏域での産官学共働による
インターンシップ等の推進【テーマB】

取組内容：既に【テーマA】で行ってきた連携のもとに、PBL やインターンシップ等の地域密着型産官学連携教育を推進することで次世代を担う人材育成の活性化を目指します。

取組担当者：工学部 教授 笠 展幸

事業期間：平成26年度～平成27年度（2年間）

3. 平成26年度私立大学等教育研究活性化設備 整備事業

文部科学省は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」を実施しています。

その中で教育の質的転換に係る設備の補助として「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」を申請しましたが、不採択でした。

タイプ名称：タイプ1「教育の質的転換」

申請設備：講義録画システム 一式

取組担当者：学務部 次長 青木 宏之

■総合機器センターの充実

最新機器を導入し最先端の研究を進めるため、平成23年度・24年度と文部科学省補助金により最新鋭の高機能X線回折装置とTOF質量分析装置を導入しました。今年度は補助金利用でのWDS電子プローブ表面分析装置の導入が決まりました。

学生支援

■修学支援

1. アクティブラーニングのサポート

学生の学習活動を支援することを目的に25号館4階講義室の固定机を移動機に変更し、アクティブラーニングに対応できるよう整備しました。

2. 学習相談室のサポート

学習相談室の数学、理科、英語などの科目を担当する教員が、入学後の大学の授業や勉強などについて、わからないことや不安などの質問に答え、学生の学力向上に努めました。

■生活支援

1. 生活支援の充実

学生課では、すべての学生が安心して学業や課外活動など、充実した学生生活が送れるよう、何でも相談できるサポート体制を整えました。また、奨学金の給付及び貸与、ボランティア活動への情報提供なども行いました。

2. 健康相談の充実

健康管理センターでは、全学生を対象に「健康調査票」を配布・回収しました。新入生についてはオリエンテーションで回収し一泊研修あるいは後日呼び出し面談を行い、快適な学生生活のスタートが切れるようサポートするとともに必要があれば学生相談に繋いでいきました。在学生については健康診断時に回収し、簡単な面談後、学生相談に繋いでいきました。また、体調不良等で来室する学生の中で精神的な原因に起因すると思われる場合は、相談室利用を勧めました。

3. ハラスメントへの対応

研修室、学生課と協力して教職員対象に「ハラスメント予防・防止」の研修会を開催しました。また、学生からハラスメントに関する相談がある場合は、学生課、関係部署と連携をとり、学生の気持ちを尊

重しながら心理的サポートを行いました。

■進路支援

1. 就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催しました。また、1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

2. 就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施しました。2年次生と3年次生対象の2年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コース、地方上級・国家一般職コースと入門講座の3コースです。3年次生対象の1年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コースと地方上級・国家一般職コースの2コースです。新規に本学独自の公務員対策講座を5回実施しました。

3. 学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の企業人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。

岡山県産業労働部と共催して学内に会社説明会を6月・10月に実施しました。



4. 就職懇談会

企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を東京・大阪・広島で開催しました。

5. 就職活動解禁日が遅くなる対策

就職活動が12月から3月解禁に変更され、昨年と違った就職活動への対策としてガイダンス等で周知しました。3年生・M1生を対象に就職活動解禁となる3月以降、業者合同会社説明会への大学発無料バスの運行を実施、就職活動解禁と同時に活動ができるようにサポートしました。

6. 就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4を発刊します。「ME」を各年次のガイダンスで活用・解説しながら入学時から一貫指導を行いました。



7. 就活ダイアリーの発行

3年次の6月に就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備に活用できるよう指導しました。

8. 就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に4月中旬に「就職・進路懇談会」を実施しました。ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者が面談し、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談に応じました。

9. 学生カルテの充実

学生ひとりひとりの面談記録、セミナー・ガイダンスの参加状況などの就職活動状況をシステムに登録し、教員とキャリアセンターが共有することにより、最善のサポートを目指しました。

10. 適性検査の実施

大学が費用を負担し、1年次生と3年次生全員を対象に適性検査を実施しました。検査後はフォローセミナーを実施し、自己理解を深め、自己をアピールできるよう学生指導しました。

■その他の支援

1. 留学生支援

平成25年度にサウジアラビアより受け入れた留学生別科の留学生を平成26年度、学部に編入学生として受け入れました。また、秋入学の留学生も受入れることにより、春入学の留学生と併せて、修学面、生活面での支援を行いました。

2. 学生メールシステムの gmail への移行

学生 Web メールシステムを gmail に移行し、スマートフォンなどの携帯型移動端末の利用便宜を図り、メールシステム全般のサービスを向上しました。

社会連携・社会貢献

■公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(岡山県の特性を学ぶコース)を開講しました。

(8月～9月)

■図書館開放

地域に開かれた大学図書館として、調査・研究または生涯学習などを目的とした利用を希望される地域住民の方に開放しました。また、岡山県内の公共図書館と連携して公共図書館への資料の無料貸出を実施しました。地域の皆様を対象にドクシヨル講演会とプレ・クリスマス・スタディを行いました。



■地域活動への参画

1. 産業界との交流の活発化

以下に挙げる地域産業界との交流行事に参加し、自治体や地元企業との連携や交流を深めました。

- (1) 岡山県主催の「産学官連携交流会」等
【5月23日・10月14日】
- (2) 岡山市(岡山工業会等)県内市町村のビジネス交流会
【5月30日・1月30日】
- (3) ㈱日本政策金融公庫の交流会
【10月6日・2月2日】
- (4) おかやま信用金庫等の金融機関、支援機関主催のしんきん合同ビジネス交流会
【9月10日】
- (5) トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流
【11月6日】
- (6) 技術振興団体(岡山県産業振興財団、山陽技術振興会、SEO等)が主催する交流会
【5月23日・1月26日】
【SEO 7月9日・10月30日】
- (7) 各種技術交流会
【4月21日・2月3日】
さらに、本学の広報を兼ねて、官公庁や産業界からの相談・見学依頼を受け入れます。
- (8) 岡山リサーチパークで開催された「おもしろ体験でえー」に8ブース出展しました。
【7月25日・26日】
- (9) 福山市立動物園と動物園動物に係る教育及び研究に関する連携協定を締結しました。
【平成27年3月5日】

2. 大学間の交流

平成23年度に終了したGP事業「岡山オルガノン」の構築に関する事業を、岡山県内16大学で構成する大学コンソーシアム岡山が継承しています。本学は加盟校として大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を通じて大学連携を行い、岡山の活性化を目指しました。

3. 外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。各委員会を通じて、産業界や

官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

4. 研究成果の社会への発表



11月21日に「OUSフォーラム2014」を開催し、元シチズン時計(株)代表取締役社長 海野幹夫氏の特別記念講演や89件の研究シーズを紹介しました。

教育研究環境

■研究施設の充実

教育研究の充実を図るために、大型機器の導入やインフラの整備を行いました。

大型機器では精度の高い固体表面分析装置であるWDS(電子プローブ表面分析)装置を文科省研究整備等補助金に申請し採択されました。また、学内の情報ネットワーク幹線機器のリニューアルを行います。さらに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業にも2件申請しました。

■ネットワーク災害対応再整備事業2014

平成18年度に整備された学内ネットワーク環境の更新を、平成28年度にかけての3年計画で実施します。第1期(平成26年度)は、11号館、25号館を中心に機器を更新し、学内ネットワークを今まで以上に快適に利用できる環境を提供しました。

学生の受入

■学生の受入方針

「建学の理念」に基づき、大学全体および学部、学科、研究科、専攻ごとに「アドミッション・ポリシー」を策定しています。入試要項やホームページ等にこの「アドミッション・ポリシー」を掲載し広く公開・周知することに努めました。

■入試方法等



教育とのリンクを図りながら、親切な対応、厳正な入試と危機管理にも配慮して実施します。本年度入試より、受験生の利便性を高めることを目的にインターネット出願を導入しました。

■オープンキャンパス等

受験生が進路先として適切かを判断するためのオープンキャンパスのほかに、科学のおもしろさを紹介するサイエンスレクチャーや、一般の方を対象とした公開講座を展開しました。

内部質保証

■自己点検

平成25年度に大学基準協会による大学認証評価を受審し、適合と判定されました。今年度は、平成25年度から始動した組織別評価委員会による自己点検・評価のシステムを定着させ、PDCAサイクルを実質的に機能させることによって、全学的な改善・改革に取り組みました。

■教員データベースの充実

教員データベースは、本学教員の教育研究活動を社会に情報公開することにより、社会的評価を受けることを目的としています。今年度は、内部質保証のひとつとして、自らのデータを点検・評価する

ことで、教育研究活動の改善・質の向上を図ることが出来るよう、教員データベースの充実を図りました。

■学外者の意見の反映

大学評価委員会の委員として、他大学教員1名、経済界1名、産業界1名の3名の外部委員を委嘱しました。今年度も引き続き委嘱し、自己点検・評価の実施方法、自己評価の在り方などについて意見を頂き反映させていきました。

50周年記念事業

■創立50周年記念事業

本学は今年度創立50周年を迎えました。50周年を記念し、以下の事業を継続して行います。

1. 新学舎の建設

新学舎の建設が平成27年度末の完成に向けて本格的に進行します。平成26年3月に起工式を行い、今年度は基礎工事が中心でした。

2. 募金事業

50周年記念事業募金を平成25年12月から開始しており、継続して募集を行っています。

3. 記念事業

教職員や学生が企画する記念事業を継続して行っています。



その他の取組等

■防災関係への取組

学生が安全なキャンパスで学習できる為に、5年計画の3年目となる防災用品の整備を進めています。

また防災訓練は9月に実施し、さらに実験室等での緊急対応の連絡体制を周知するために、緊急連絡方法を各室に掲示しました。学生便覧の地図上にAED、防火施設情報や障がい者トイレ等のバリアフリー情報を掲載しました。また、新学舎工事の安全確保のため、「工事ナビ」を設け、スマホやPCを通じて学生に工事情報を提供しています。

人事・組織

任期満了に伴い、副学長、学部長、研究科長の改選が行われ、平成26年4月より理学部長・理学研究科長に横山崇教授、総合情報学部長・総合情報研究科長に志野敏夫教授が新たに就任しました。各学科学長や各部署の役職者についても任期満了に伴い、改選が行われ、平成26年度より新しい組織体制でスタートしました。

事務組織においては、庶務部内の評価企画課と秘書課を統合して、秘書企画課に改編、また、教育学部新設のため、教育学部設置準備室を新たに設けました。

なお、昨年に引き続き、更なる学生支援、教育支援、研究支援の充実に向けて、事務組織の改編を検討、附属施設、附属研究所においても、より効果的な教育研究組織となるように、将来構想を検討しました。

主な行事

| | |
|--------------------|---------------------------------|
| 4月2日 | 入学前オリエンテーション |
| 4月3日 | 入学宣誓式 |
| 4月4日 ～7日 | 新入生オリエンテーション |
| 4月8日 | 在学生オリエンテーション |
| 5月10日 ～11日 | 皐月祭 |
| 5月18日 | 就職進路懇談会 |
| 6月15日 | オープンキャンパス |
| 7月22日 ～8月1日 | 春学期定期試験 |
| 8月2日 ～3日 | オープンキャンパス |
| 9月6日 ～7日 13日 | 教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学） |
| 9月11日 | 秋学期オリエンテーション |
| 9月23日 | オープンキャンパス |
| 10月5日 | AO入試 総合学科特別推薦入試Ⅰ期 専門学科・ |
| 11月3日 | 特別推薦入試 総合学科特別推薦入試Ⅱ期 専門学科・ |
| 11月15日 ～16日 | 推薦入試A方式 |
| 11月21日 | OUSフォーラム |
| 11月22日 ～24日 | 半田山祭（大学祭） |
| 12月14日 | 推薦入試K方式 |
| 1月17日 ～18日 | 大学入試センター試験 |
| 1月30日 ～2月1日 | 一般入試前期SA・SAB方式 |
| 2月19日 | 一般入試前期SB・B1方式 |
| 3月20日 | 学位記授与式 |
| 3月22日 | 一般入試後期 |

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

| 研究科・学部・学科名 | | 入学定員 | 入学者数 | | 収容定員 | | 在学者数 | | 秋期入学 ※ | |
|------------|----------------------|-----------|-------|-----|-------|-------|------|-----|-----------|---|
| | | | 留学生 | 社会人 | | | 留学生 | 社会人 | | |
| 大学院 | 理学研究科 (博士) | 13 | 6 | | 39 | 15 | | | | |
| | 理学研究科 (修士) | 76 | 48 | | 152 | 100 | | | | |
| | 工学研究科 (博士) | 5 | 1 | | 15 | 7 | 4 | 1 | | |
| | 工学研究科 (修士) | 66 | 39 | 6 | 132 | 67 | 11 | | | |
| | 総合情報研究科 (博士) | 2 | 3 | | 6 | 5 | | 2 | 1 | |
| | 総合情報研究科 (修士) | 20 | 16 | 2 | 40 | 26 | 2 | | | |
| | 大学院 計 | 182 | 113 | 8 | 1 | 384 | 220 | 17 | 3 | 1 |
| 理学部 | 応用数学科 | 95 | 114 | 1 | 380 | 464 | 1 | | | |
| | 化学科 | 70 | 96 | | 280 | 354 | | | | |
| | 応用物理学科 | 70 | 73 | | 280 | 290 | | | | |
| | 基礎理学科 | 75 | 89 | | 300 | 351 | | | | |
| | 生物化学科 | 85 | 108 | | 340 | 413 | | | | |
| | 臨床生命科学科 | 85 | 95 | | 340 | 411 | | | | |
| | 動物学科 | 40 | 47 | | 160 | 190 | | | | |
| | 計 | 520 | 622 | 1 | 2,080 | 2,473 | 1 | 0 | 0 | |
| | 工学部 | バイオ・応用化学科 | 75 | 86 | | 300 | 361 | 1 | | |
| | | 機械システム工学科 | 85 | 109 | 3 | 340 | 416 | 11 | | |
| 電気電子システム学科 | | 70 | 74 | 2 | 280 | 319 | 13 | | 2 | |
| 情報工学科 | | 85 | 103 | 2 | 340 | 422 | 4 | | | |
| 知能機械工学科 | | 55 | 57 | 9 | 220 | 208 | 20 | | 4 | |
| 生体医工学科 | | 60 | 55 | 3 | 240 | 218 | 18 | | 3 | |
| 建築学科 | | 70 | 90 | 8 | 290 | 314 | 23 | | | |
| 計 | | 500 | 574 | 27 | 2,010 | 2,258 | 90 | 0 | 9 | |
| 総合情報学部 | 情報科学科 | 80 | 100 | 1 | 320 | 368 | 5 | | | |
| | 生物地球システム学科 (募集停止) | | — | — | 70 | 108 | | | | |
| | 社会情報学科 | 80 | 95 | 2 | 320 | 364 | 13 | | | |
| | 建築学科 (募集停止) | | — | — | — | 6 | | | | |
| | 計 | 160 | 195 | 3 | 710 | 846 | 18 | 0 | 0 | |
| 球生物部地 | 生物地球学科 | 120 | 140 | | 320 | 376 | 1 | 1 | | |
| | 計 | 120 | 140 | 0 | 320 | 376 | 1 | 1 | | |
| 学部 計 | | 1,300 | 1,531 | 31 | 5,120 | 5,953 | 110 | 1 | 9 | |
| 総合計 | | 1,482 | 1,644 | 39 | 5,504 | 6,173 | 127 | 4 | 10 | |
| 理学部理学専攻科 | | 30 | 0 | | 30 | 0 | | | | |
| 教職特別課程 | | 50 | 7 | | 50 | 7 | | | | |
| 留学生別科 | | 60 | 12 | 12 | 60 | 12 | 12 | | | |

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成26年5月2日～平成27年3月31日)に入学した者です (単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成26年度)

| 区分 | 修了者・ 卒業生 | 満期 退学 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学者 | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|--------|-------------|----------|------------|----------|------------|-----|-------------|-----|----------|
| 大学院 | 博士 | 5 | 1 | 5 | 4 | 80% | 2 | 2 | 6 |
| | 修士 | 83 | | 78 | 67 | 86% | 4 | 4 | 0 |
| 学部 | 1,226 | | 1,045 | 900 | 86% | 133 | 123 | 125 | 465 |
| 教職特別課程 | 5 | | 5 | 5 | 100% | | 2 | 0 | 0 |
| 留学生別科 | 9 | | | | | 8 | 0 | 0 | 0 |

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成27年4月1日現在) (単位:人)

| | | | | |
|-------|------------|----------|---------|------------|
| 主な就職先 | JFEスチール(株) | 新日鉄住金(株) | (株)クラレ | (株)永谷園 |
| | (株)大林組 | (株)奥村組 | (株)中国銀行 | 西日本旅客(株) 他 |

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| 理事長・総長 | 学長 | 副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 教育講師 | 助手 | 別科講師 | 教員計 |
|--------|----|-----|-----|-----|----|----|------|----|------|-----|
| 1 | 1 | 2 | 163 | 62 | 34 | 4 | 2 | 1 | 1 | 271 |

※学長・副学長除く

| 事務職員 | うち大学職員 | うち本部職員 |
|------|--------|--------|
| | 200 | 112 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 科目 | 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------|------------|
| 学納金収入 | 8,922,462 | 8,773,196 |
| 補助金収入 | 784,113 | 922,577 |
| その他収入 | 955,352 | 754,205 |
| 帰属収入合計 | 10,661,928 | 10,449,979 |
| 基本金組入額合計 | △ 41,905 | △ 270,796 |
| 消費収入の部合計 | 10,620,024 | 10,179,183 |
| 人件費 | 5,218,417 | 5,274,855 |
| 教育研究経費 | 2,576,373 | 2,721,719 |
| 管理経費 | 692,371 | 532,600 |
| その他支出 | 140,938 | 314,752 |
| 消費支出の部合計 | 8,628,099 | 8,843,927 |

■施設設備整備（抜粋）

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器を計画的に整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|------------------------|-----------|
| 第11号館2階・6階～8階トイレ改修工事 | 34,900 |
| 第4号館1階～4階トイレ改修工事 | 27,810 |
| 第22号館コンビニ横トイレ改修工事 | 820 |
| 第25号館4階・5階ラウンジコーナー改修工事 | 1,750 |
| 第4号館1階ムスリム礼拝室改修工事 | 1,600 |
| 第22号館6階化学実験室電源増設工事 | 1,130 |
| 第11号館喫茶棟トイレ改修工事 | 1,440 |
| ミュージックハウスへ昇る階段の手摺設置工事 | 426 |
| 第25号館入り口掲示板設置工事 | 459 |
| 斜行エスカレーター西猪対策フェンス設置工事 | 1,600 |
| 第22号館西側落石防止柵設置工事 | 2,770 |
| 生命動物教育センター貯水槽土間設置工事 | 450 |
| 自然植物園生体システム園入り口門扉設置工事 | 854 |
| 東門ゲート改修工事 | 740 |
| 笹ヶ瀬弓道場防矢フェンス設置工事 | 950 |
| 新建物建築費（設計・監理、建築中間金） | 2,975,600 |

主な装置・設備関係

(その他の大型機器)

(単位:千円)

| 事業名 | 金額 |
|--|--------|
| WDS 電子プローブ表面分析装置 (補助金決定額: 42,249) | 67,300 |
| ネットワーク災害対応再整備事業2014 内訳: 機器等購入分 (35,860) ソフトウェア (1,031) その他作業費 (8,109) [補助金不採択] | 45,000 |
| 第4世代ネットワーク環境整備事業(支線)第1期 | 6,500 |

主な共同研究

(単位:千円)

| 事業名 | 金額 |
|------------------------------------|--------|
| 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業共同研究 | 17,882 |
| QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究 | 39,968 |

平成 26 年度 事業報告



倉敷芸術科学大学

今年度の最重要事項として、社会のニーズに合う人材を養成して、卒業生が完全に就職できるように、教職員が一丸となって、徹底した教育指導を行います。



教育面では芸術と科学の協調をさらに推し進めて、芸術学部・産業科学技術学部・生命科学部の枠を超えた連携を深めます。今年から学科を 10 学科から 7 学科に統合して体制の充実を図り、密度の高い教育に取り組みました。

研究面では教員全員が最先端の研究を推進し、より多くの研究者が科学研究費補助金の申請を行い、研究の成果を教育や地域社会に還元できるように努めました。

地元地域との連携では外部諮問委員会などからのご意見・提言により学外との窓口を明確化し、大学の教育ならびに外部からの意見等を運営に反映させるため努力しました。

創立 20 周年を迎えるにあたり、古い体質から脱皮するため、さらなる教育改革としっかりした大学の環境作りを推し進めました。

「社会に貢献できる人材養成」などの建学の理念を持つ、同じ加計グループの学校との教育連携を強化し、特に、岡山理科大学および千葉科学大学とは互いに協力し合いながら、幅広い教育研究を行っていきます。

倉敷芸術科学大学 学長 土井 章

教育の充実

■共通教育

従来の教養教育から全学共通教育化の改革を進め、人間力、社会人基礎力の育成、初年次に大学で学ぶ意識を高める導入教育の強化および教育内容・教育方法の充実を図るよう、さらに教養科目と専攻科目が連動した全学的カリキュラムへの見直しを始めました。

■学部・学科等の改組

・**芸術学部**：従来の美術工芸学科とデザイン学科を統合し、デザイン芸術学科（入学定員 55 名）に名称変更しました。（4 月 1 日より）

・**産業科学技術学部**：従来の経営情報学科と観光学科を統合し、経営情報学科（入学定員 95 名）1 学科体制とし、観光をコース化し継続して教育しています。（4 月 1 日より）

・**生命科学部**：生命科学科の入学定員を 45 名から 50 名に変更しました。生命動物科学科の学科名称を動物生命科学科（入学定員 60 名）に変更しました。また、健康科学科と健康医療学科を健康科学科（入学定員 85 名）として統合し、健康科学専攻と鍼灸専攻に専攻化し継続して教育しています。

（4 月 1 日より）

・**製菓衛生師別科**：平成 26 年度末をもって廃止しました。

■産学連携教育

倉敷市の推進する中心市街地活性化事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成を進めています。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を継続して実践していきます。

■高大連携教育

文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校や教育協力提携校との生命科学、IT科学、美術工芸、デザイン、アニメーション分野などでの連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育の実現を進めています。

■入学前教育・初年次教育

昨年度に続き、入学前の新生生に対し、入学前教育課題集を作成、送付し、新生生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を充実させました。入学後は、1年次対象に前・後期、基本英語・基本数学・基本化学・基本物理の4科目8単位の修得を可能とし、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる態勢を加えることにより、初年次教育を継続して充実させていきます。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD講演会、授業アンケート、学生満足度に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。授業アンケートに関して、実施結果を分析し、授業改善に向け反映するよう努めました。

■学科の特色ある取り組み

・芸術学部において、フランスの印象派画家クロード・モネの自宅庭園を再現した観光施設「モネの庭」がある高知県北川村と昨年度包括連携協定を結び、今年度から素晴らしい創作環境のもと学生の教育の場として活用しました。

(1) 北川中学校の全校生徒と本学学生との交流と美

術教室の実施

- (2) 北川村村民のための美術教室の実施
- (3) 北川小学校の全校児童との陶芸教室の実施。



・生命科学科では、平成24年5月に設立された「鈴木章がストリーネットワーク」を通じて、引き続き多才な講師陣による公開講演会を開催し、化学教育の普及をめざして継続して活動していきます。

■教育改善の支援

・大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山では、岡山県内の16大学が連携し、(1)大学相互の協力と情報交換、(2)地域社会との交流と生涯学習の推進、(3)地域高校との連携、(4)地域創生学の構築、(5)地域発信による国際交流を行っています。本学は連携の中で、相互単位互換として科目提供、また、生涯学習講座の講師派遣の一部を担当しました。

・産業界のニーズに対応した教育支援

平成24年度産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に中四国の18大学が連携し、採択された「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」において、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働し取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成をめざしました。具体的に補助事業の最終年度となる今年度も引き続き本学では(1)インターンシップの充実、(2)キャリア教育の充実、(3)学生マイスター制度の充実、(4)e-ポートフォリオの充実の4つの取組を中心に事業を推進しました。取組の概要は、<http://www.kusa.ac.jp/competitive-funds/cultivation/> を参照。

■鍼灸ケアセンター

ヘルスパイア倉敷にて、生命科学部健康科学科鍼灸専攻の学生が鍼灸ケアセンターを実習に利用し、相互の連携を深めています。

また、平成25年3月には鍼灸治療院を開院し、大学有資格教員が下記の日程にて外部診療を行っています。

毎週火・木曜日、第3金曜日

9:30～13:00、14:00～17:00



研究の充実

科学研究費助成事業（補助金分・基金分）、受託研究、共同研究事業等の外部資金を積極的に獲得することを推進し、外部資金相談窓口を設けるとともに情報発信し、研究活動の充実を図りました。

学生支援

■修学支援

入試の多様化に伴い、入学した学科の基礎学力として必要な科目を高校で学習しないで入学する学生が多くいます。そのため基礎学力の充実を図るため各科目（英語・数学・物理・化学）の学習相談や基本講座を開設し学習の支援を行いました。

■進路支援

・就職ガイダンス

就職ガイダンスは、1，2年次生の低学年を対象に数回開催しました。3年生前期からは、OB・OGの体験報告会や4年次生の内定者報告会をはじめ、マナーメイク講習、個人/集団面接トレーニングなど

も数回取り入れて実施しました。

・就職対策講座

履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用対策講座を通年で実施し、公務員希望者を支援しました。

・職業適性等

3年次生対象に、年2回（7月・10月）SPI適性模擬検査を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映させました。また、11月には就職実践模試（一般常識・基礎学力テスト）やエントリーシート攻略テストを実施するなど、実際の就職試験に備えました。

・就職支援

就職活動の質問、不安、悩みなどの対応ができるように24時間メールにて学生対応にあたりました。就職試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

・学生カルテ

学生との面談記録、キャリアガイダンスの出欠状況などの就職活動状況が一目でわかるように学生カルテを活用し、就職支援の一層の充実を図り、従来に増してきめ細かい学生支援を展開しました。

・就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京、広島、大阪で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。

■生活支援

・奨学金支援

日本学生支援機構の奨学金を中心に各種奨学金（地方自治体等）を含め、人物、学業に優れ、経済的な理由で修学が困難な学生に経済的な援助を行う事務窓口を設け修学支援しました。

・健康等支援と相談

学生、教職員の健康管理と健康増進を図るため、健康相談、心の健康相談（カウンセリング）：対人関係・家族・家庭に関する相談、修学・進路に関する相談、心理的・精神的問題に関する相談、その他大学生活に関する相談等の支援を行いました。

■留学生支援

日本の事情をよく知らない留学生に対し、大学生活が不自由なく送れるよう生活指導を行い、様々な問題や悩みの相談、また、新入生に対しては、指定宿舎の部屋の確保など、生活面で学費減免や各種奨学金の紹介など支援を行いました。今後の海外情勢の好転を予想し、多くの留学生の受け入れに備えました。

社会連携・社会貢献

■地(知)の拠点整備事業(COC)の推進

地域再生の核となる大学をめざして、昨年度に引き続き本学とくらしき作陽大学の2大学の共同申請を計画し、4月に申請書を文部科学省に提出。全国から237件の応募があり、そのうち採択された25件の1つに選ばれました。この採択された事業は、本学とくらしき作陽大学の2大学が倉敷市と強力で連携して推進するもので、乳幼児から多様な成長・発達の基礎となる五感力に美術と音楽の要素を取り入れたカリキュラムの構築などにより、文化を支える倉敷に根付いた人材を育成することでその成果を地域へ還元していくことを目的とするものです。補助事業1年目、申請計画通り進めました。

教育研究環境

■施設の充実

- ・最新の環境のもとで充実した教育を行うため、パソコン及びパソコン関連設備の更新を行いました。
- ・開学以来の空調設備の老朽化に伴い、よりよい環境のもと教育・研究が可能となるよう5号棟・7号棟の空調設備の更新を行いました。
- ・学生のサークル活動を援助するため、弓道・アーチェリー射場の夜間照明設備の設置を行いました。

・ヘルスピア倉敷のスケートリンク改修工事による通年利用が可能となり、12月6日のオープニングセレモニーには同大学の選手と共に地元の高橋大輔選手、無良崇人選手によるミニアイスショーが行われ、スケート関係者を含む約300名による祝賀会が開催されました。今後は氷上競技における西日本の拠点として活用されることが期待されています。

学生の受入

■重点地区を強化した広報戦略

県内(地元)を重視した募集活動を継続して展開し、さらなる志願者の増加をめざしました。福岡で開催の合同説明会は、4年目を迎え、さらに実績があがるよう強化しました。

■関心度アップ対策

資料請求者へさらなる関心を持ってもらうよう、大学トピックス(芸科大通信)をタイムリーに発信し、接触回数を増やし関心度アップを狙いました。業者企画のDMによる幅広い情報発信も展開しました。

■オープンキャンパス

春のテーマ「考える」、夏のテーマ「深める」、秋のテーマ「極める」。模擬体験授業、学科体験イベント、在学生・卒業生の頑張り紹介など多彩なイベントを用意。夏は、岡山県内外から無料送迎バスを運行し、学生ガイドによる「倉敷美観地区観光ツアー」を開催しました。また、保護者対象オープンキャンパスを10月に開催しました。

■合格者対象説明会

合格者に対しての説明会を実施し、アパート、奨学金など合格者やその保護者の抱える疑問や不安を解消し、歩留まりの強化に努めました。

■知名度アップ対策

・平成27年度の開学20周年を記念し、大学のロゴ及びキャッチフレーズを制作し、各種印刷物に使用して、大学の認知度アップをめざしました。



・霞橋側壁面へ大型大学名看板を設置し、倉敷市をはじめ、地元知名度アップをめざしました。



内部質保証

■自己点検・評価

本学では、開学と同時に自己評価委員会を設置し、自己点検・評価に取り組んでいます。この委員会には、学内委員のほか、産・官・学から1名ずつ外部有識者として構成員に迎え、外部委員の意見を評価に反映させています。大学院、学部、学科、各種委員会が当初目標を設定し、中間報告を経て最終到達報告を行い、次年度に前年度を踏まえた改善目標を設定するなどPDCAサイクルを機能させ教育改革を行いました。

■外部諮問委員会の活用

学長の諮問機関として、4分科会25名からなる外部諮問委員会(平成24年度、25年度の2カ年)を設置し、本学が一層の充実・発展を図るための大学改革のあり方について意見を求め、平成26年3月に委員会より学長に答申されました。今後大学として、この答申に沿って本学の充実・発展のため改善に努めていきます。

■教員業績

教員の基本情報、教育活動、研究業績、学内活動、社会貢献活動等の項目をデータベース化し、教員情報システム構築の検討を行いました。これにより、各教員の業績等を把握し、昇任等の参考にするなど、いろいろな面の活用を継続して考えていきます。

その他取組等

■創立20周年記念事業

平成27年度の創立20周年を記念し、(1)「記念オブジェの制作・設置」(2)「駐輪場への屋根の設置」(3)「クラブハウスの設置」(4)ホームページへの「創立20年の歩み」やこれからの将来に向けてのページの制作などの記念事業を計画し、(2)(4)については、今年度工事、制作を完了しました。また、ヘルスピア倉敷アイスアリーナを一年中利用できるよう改修しました。

受賞・課外活動

■主な受賞

- 第65回岡山県美術展覧会
 - 洋画部門 奨励賞1名、入選2名
 - 日本画部門 地域奨励賞1名、入選1名
 - デザイン部門 岡山市長賞1名、奨励賞1名、入選5名
 - 工芸部門 県展賞2名
- 第24回スクエアエックス・マンガコンテスト 佳作1名
- 第3回晴れの国おかやま映像コンテスト
 - 地域映像部門 部門賞1名、入1名
 - お宝発見部門 入選1名
- 第12回NHK ミニミニ映像大賞
 - ファイナリスト入選 メディア映像学科
- 岡山県洋菓子コンテスト2014デザート部門学生部門
 - 金賞1名、銀1名

■部活動報告

○バスケットボール部

(男子)

第6回中国学生バスケットボール新人大会 3位

中国大学バスケットボール秋季大会 4位

(女子)

第40回中国大学バスケットボール選手権春季大会優勝

第6回中国学生バスケットボール新人大会 3位

中国大学バスケットボール選手権秋季大会 優勝

第66回全日本大学バスケットボール選手権大会出場

○弓道部

第62回全日本学生弓道選手権大会

個人戦出場1名

○フィギュアスケート同好会

2014年 JOC 初スシボルアスリート 選出

四大陸選手権・世界シニア選手権日本代表 選出

第69回国民体育大会フィギュアスケート競技

成年男子2位

2014中四国九州フィギュアスケート選手権大会

男子シニア優勝、女子シニア優勝

ISU 公認大会フランス・ニース大会 シニアの部総合3位

第8回西日本学生フィギュアスケート選手権大会

個人男子1位、個人女子4位、17位

第87回日本学生氷上競技選手権大会3名出場

グランプリシリーズ上海大会 個人男子8位

第83回全日本フィギュアスケートシニア選手権大会

個人男子8位、個人女子24位

人事・組織

■学長・学長顧問・副学長・学部長等の選出

学長の任期途中での退任により、学長、学長顧問、副学長、芸術学部長、芸術研究科長等の選出が行われました。学長は、土井章氏、学長顧問は、唐木英明氏(前学長)、副学長には、加計悟氏(再任)、児島塊太郎氏及び田丸憲二氏、副学長補佐には、猪木原孝二氏、また、児島芸術学部長の副学長就任に伴い、芸術学部長・芸術研究科長には、近藤研二氏が就任し、

新体制で4月1日より大学運営に当たっています。

■製菓衛生師別科の廃止

昨年度の調理師別科(1年制)に続き、在籍者全員修了したため、製菓衛生師別科(2年制)を廃止しました。

■組織の変更

大学改革室、教育研究支援センター、学習支援センターを発展的に廃止し、教職員一丸となって大学改革を進めるため、教学と経営の両面から大学改革立案、計画、申請、評価、改善する改革推進室を4月1日より設置しました。また、改革推進室の管轄のもとに教育関係を担当する教育推進センターと教員の研究関係を支援する学外連携センターを置き、改革を推進しました。

主な行事

| | |
|---------------|---------------------------|
| 4月4日 | 入学前オリエンテーション |
| 4月5日 | 入学宣誓式 |
| 4月6日 | 大学院(通信制)入学宣誓式 |
| 4月7日 ~10日 | 新入生・在学生オリエンテーション |
| 4月11日 | 前期授業開始 |
| 4月12日 | 霞祭 |
| 6月8日 | 春オープンキャンパス |
| 7月26日 27日 | 夏オープンキャンパス |
| 7月29日 30日 | 教員免許状更新講習会 |
| 8月1日 ~7日 | 前期定期試験 |
| 9月13日 | 教育懇談会(地方会場) |
| 9月20日 | 教育懇談会(本学会場) |
| 9月23日 | 学部学位記授与式、留学生別科1年半コース入学宣誓式 |
| 9月24日 | 後期オリエンテーション |
| 9月25日 | 後期授業開始 |
| 9月27日 | 秋オープンキャンパス |
| 10月25日 26日 | 芸科祭 芸科祭・保護者対象オープンキャンパス |
| 12月2日 | 就職懇談会(東京会場) |
| 12月6日 | アイスアリーナリニューアル |
| 2月3日 ~7日 | 後期定期試験 |
| 3月6日 | 就職懇談会(広島会場) |
| 3月13日 | 就職懇談会(大阪会場) |
| 3月23日 | 学位記授与式 |

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

| 研究科・学部・学科名 | | 入学定員 | 入学者数 | | 収容定員 | 在学者数 | | 秋期入学 ※ | |
|--|--------------------|------------|------------|-----------|--------------|--------------|------------|-----------|----------|
| | | | 留学生 | 社会人 | | 留学生 | 社会人 | | |
| 大 学 院 | 芸術研究科(博士) | 4 | 1 | 0 | 12 | 8 | 3 | 0 | |
| | 芸術研究科(修士) | 20 | 6 | 1 | 40 | 13 | 1 | 0 | |
| | 産業科学技術研究科(博士) | 4 | 0 | 0 | 12 | 2 | 0 | 0 | |
| | 産業科学技術研究科(修士) | 16 | 10 | 0 | 32 | 21 | 0 | 0 | |
| | 人間文化研究科(修士) | 15 | 3 | 2 | 30 | 7 | 4 | 0 | |
| | 大学院 計 | 59 | 20 | 3 | 126 | 51 | 8 | 0 | |
| 芸 術 学 部 | 美術工芸学科 (募集停止) | — | — | — | 105 | 60 | 1 | 0 | |
| | メディア映像学科 | 50 | 52 | 6 | 154 | 168 | 12 | 0 | |
| | デザイン学科 | — | — | — | 105 | 78 | 1 | 0 | |
| | デザイン芸術学科 | 55 | 36 | 3 | 55 | 36 | 3 | 0 | |
| | 計 | 105 | 88 | 9 | 419 | 342 | 17 | 0 | |
| 技 産 術 業 学 科 部 学 | IT科学科 (募集停止) | — | — | — | 0 | 2 | 1 | 0 | |
| | 起業経営学科 (募集停止) | — | — | — | 0 | 1 | 1 | 0 | |
| | 経営情報学科 | 95 | 31 | 6 | 261 | 139 | 59 | 0 | |
| | 観光学科 (募集停止) | — | — | — | 137 | 67 | 36 | 0 | |
| | 計 | 95 | 31 | 6 | 398 | 209 | 97 | 0 | |
| 生 命 科 学 部 | 生命科学科 | 50 | 64 | 0 | 185 | 211 | 1 | 0 | |
| | 健康科学科 | — | — | — | 165 | 165 | 0 | 0 | |
| | 健康科学科(健康科学専攻) | 55 | 74 | 0 | 55 | 74 | 0 | 0 | |
| | 健康科学科(鍼灸専攻) | 30 | 8 | 0 | 30 | 8 | 0 | 1 | |
| | 生命動物科学科 | — | — | — | 199 | 198 | 0 | 0 | |
| | 動物生命科学科 | 60 | 54 | 0 | 60 | 54 | 0 | 0 | |
| | 生命医科学科 | 50 | 52 | 0 | 195 | 205 | 0 | 1 | |
| | 健康医療学科 (募集停止) | — | — | — | 90 | 42 | 0 | 1 | |
| | 計 | 245 | 252 | 0 | 979 | 957 | 1 | 3 | |
| | 学部 計 | 445 | 371 | 15 | 1,796 | 1,508 | 115 | 3 | |
| 通学制 合計 | | 504 | 391 | 18 | 1,922 | 1,559 | 123 | 3 | 0 |
| 大 学 院 (通 信 制) | 芸術研究科(修士) | 10 | 2 | 0 | 20 | 2 | 0 | 1 | |
| | 産業科学技術研究科(修士) | 20 | 0 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | |
| | 人間文化研究科(修士) | 30 | 4 | 0 | 60 | 6 | 0 | 6 | |
| | 計 | 60 | 6 | 0 | 120 | 8 | 0 | 7 | |
| 学 部 (通 信 教 育 課 程) | 産業科学技術学部 (募集停止) | — | — | — | — | 2 | 0 | 0 | |
| | 計 | — | — | — | — | 2 | 0 | 0 | |
| 通信制 合計 | | 60 | 6 | 0 | 120 | 10 | 0 | 7 | 0 |
| 総合計 (通学制+通信制) | | 564 | 397 | 18 | 2,042 | 1,569 | 123 | 10 | 0 |
| 別 科 | 留学生別科 | 60 | 2 | 2 | 80 | 16 | 16 | — | 32 |
| | 製菓衛生師別科 (募集停止) | — | — | — | 40 | 7 | 0 | 0 | — |
| | 計 | 60 | 2 | 2 | 120 | 23 | 16 | 0 | 32 |

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成26年5月2日～平成27年3月31日)に入学した者です

(単位:人)

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|-----|----|----|----|------|------|-----|------|
| 学長 | 副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 別科講師 | 教員 計 | (1) | 事務職員 |
| 1 | 3 | 60 | 24 | 13 | 8 | 1 | 3 | 109 | | 63 |

(単位:人)

■ 卒業生数等一覧

(平成26年度)

| 区分 | | 修了者・ 卒業生 | 満期 退学 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学者 | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|------------|-------|-------------|----------|------------|----------|------------|-----|-------------|-----|----------|
| 大学院 | 博士 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0% | - | 1 | 0 | 1 |
| | 修士 | 22 | - | 14 | 14 | 100% | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 学部 | | 380 | - | 278 | 261 | 94% | 13 | 52 | 16 | 28 |
| 大学院（通信制） | | 2 | - | - | - | - | - | 0 | 0 | 0 |
| 学部（通信教育課程） | | 1 | - | - | - | - | - | 0 | 0 | 1 |
| 別科 | 留学生 | 14 | - | - | - | - | 14 | 11 | 0 | 0 |
| | 製菓衛生師 | 5 | - | 5 | 5 | 100% | - | 3 | 0 | 0 |

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成27年4月1日現在）

（単位：人）

| | |
|-------|---|
| 主な就職先 | (株)イマジテックデジタルスクエア、関電システムソリューションズ(株)、山陽新聞社、(株)新日本科学、セキスイハイム中四国(株)、(株)テイクアンドグリップ・ユーズ、(株)天満屋アトセンター、日本クリア(株)、平喜酒造(株)、(株)ホテルグランドパレス岡山、吉忠マリン(株)、岡山赤十字病院、岡山中央病院、倉敷成人病センター、倉敷中央病院、三重県中学校教員、倉敷消防局、広島市消防局、倉敷アイビースクエア、ヤマネ(株)、パティスリーココロ、パティスリーシエルブルー、ホノルルコーヒー |
|-------|---|

財務関係

■ 消費収支

(単位：千円)

| 科目 \ 年度 | 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------|------------|
| 学納金収入 | 2,348,834 | 2,479,088 |
| 補助金収入 | 395,769 | 492,515 |
| その他収入 | 246,484 | 277,807 |
| 帰属収入合計 | 2,991,086 | 3,249,410 |
| 基本金組入額合計 | △ 25,498 | △ 74,947 |
| 消費収入の部合計 | 2,965,589 | 3,174,463 |
| 人件費 | 2,214,670 | 2,345,625 |
| 教育研究経費 | 942,210 | 989,473 |
| 管理経費 | 261,463 | 252,886 |
| その他支出 | 63,469 | 35,941 |
| 消費支出の部合計 | 3,481,813 | 3,623,925 |

■ 施設設備整備

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|---------------------------|---------|
| 5号棟空調機更新 | 32,269 |
| 7号棟空調機更新 | 20,331 |
| 駐輪場上屋新設工事 | 7,454 |
| 正門前駐輪場上屋新設工事 | 13,349 |
| 大学名看板設置工事 | 17,000 |
| 弓道場射場夜間照明設備工事 | 2,744 |
| 22号棟メディア映像学科PC関連設備整備に伴う工事 | 2,916 |
| 総合医療健康センタースケートリンク改修工事 | 288,668 |
| 総合医療健康センター空調機更新 | 12,000 |
| 2号棟2402CALL教室PC更新 | 7,560 |
| 5号棟5519室PC関連設備 | 21,060 |
| 22号棟メディア映像学科PC関連設備 | 22,464 |
| 健康医療学科機器 | 3,975 |
| 健康医療学科図書 | 797 |

平成26年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



学生ひとりひとりの能力を最大限に伸ばすために教職員が一致団結して指導し、学生の満足度を高められるよう努力しました。

1. 次の10年に向けて若手の教職員の活躍に期待しましたが充分とは言えませんでした。逆に年輩の教職員によって、“船頭多くして船山へ登る”状態がみられました。
2. 危機管理システム学科に警察官・犯罪科学コースを設置するための準備をしました。
3. 新入学生対象に地域学習のための「銚子学」を選択科目として平成27年度から開講するための準備をしました。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教育の充実

■看護学部の開設

平成26年4月に看護学部を開設しました。看護学の知識・技術だけでなく、既存の薬学部や危機管理学部と連携した教育を展開し、「危機管理」の視点をも重視した看護学教育に取り組み、いかなる状況においても「真に人を助けられる」看護職を育成します。

■エアラインパイロットプログラムの実施

工学技術危機管理学科パイロット・整備コースにおいて、エアラインパイロットプログラムを実施し、被災地での運行を想定し、災害による環境や状況の変化を理解しながら安全に航空機を操縦する事業用操縦士を体験や実習を通して育成します。

■日本語補習講座の開講

外国人留学生を対象に日本語能力検定2級合格を目標とした補習講座を開講しました。

■FD活動の推進

学生による授業評価アンケート、教員対象のFD講演会、教員相互に行う公開授業およびFD活動に関する意見交換会などを実施し、FD活動を行いました。

■大学間連携共同教育推進事業

本学と千葉大学及び城西国際大学による、5個のプログラムにおけるEラーニング及び演習を実施し、

受講修了学生による成果発表会を開催しました。また、9月29日に第1回実践社会薬学シンポジウムを千葉大学にて開催し、約200名の参加があった。本学からは、学長教職員学生を合わせて23名参加し、うち2名の学生が本学主管のクラスCに参加した成果発表を行いました。

■社会人大学院サテライト教室（東京）

社会人の学び直しに因るため、在職のままで学位取得の可能な「大学院危機管理学研究科サテライト教室」において、危機管理学に関しワン・ストップで総合的に学び、修士、博士の学位が取得できる大学院教育を推進します。今年度は6名の社会人が受講しました。

学生支援

■修学支援・学習支援

専願入試合格者に対し、入学前指導を実施し、入学までの不安解消と学習意欲の継続を図っていきます。また、入学後は充実した学生生活の支援のため学習全般についての相談を実施します。

・全学共通情報システムの導入

全学共通情報システムの導入により、入試段階から就職支援に至るまでの情報を一元化し、学生の修学支援の充実を図るべく2年計画で導入を進めております。

■進路支援

学生に対する大学院への進学支援、就職支援、キャリア支援、公務員対策、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行っています。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元および周辺地域企業に重点を置いて開拓を推進しました。

・就職ガイダンス及び各種セミナーの開催

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行ってまいりました。

・インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期に1～2週間程度の就業体験を実施し100名程度の学生が参加しました。

なお、10月27日にインターンシップ報告会を実施いたしました。

・合同業界研究会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同業界研究会を12月13日、14日の2日間学内で開催しました。

・キャリア支援

キャリア支援科目に職員を派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えています。

・公務員試験対策

2月19日から3月3日にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、3月4日から27日まで実践講座（主に3年次対象）を開講しました。また、筆記試験合格者に対して、面接対策セミナーを実施します。業者主催公務員模擬試験を学内で1月と3月に実施しました。

・資格取得支援

危険物取扱者の試験対策講座（10月9日から11月27日）8回開講し、資格取得試験を11月30日学内で実施しました。

・就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行い、特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の企業懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

■生活支援

新入生、在学生オリエンテーションや各種奨学金の説明会及びアパートの紹介など学生の日々の生活に関連する諸々の支援の充実を図ってまいりました。

■留学生支援

新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の協力を得て新入生へ

の指導を行いました。

- ・一日研修旅行 11月 留学生を含めて34名参加
- ・加計杯日本語弁論大会 11月 特別賞、学長賞及び加計杯を受賞しました。

■学生図書委員会制度の設立

学生図書委員会制度を設立し、学生からの要望を取り入れた図書館運営を行って参りました。

社会連携・社会貢献

■地(知)の拠点整備事業

千葉科学大学COC拠点整備事業推進協議会(会長:銚子市長)および防災、食の安全、観光・郷土教育などワーキンググループでの協議を踏まえ、大学が地域における知の拠点(Center of Community)となることをめざして、COC事例発表会の開催などを通じ、地域に根差した産官学連携を進めております。

■CISフォーラム

有識者による講演会、大学、企業の研究者が最新の研究成果やシーズを紹介します。講演会参加者185名、ポスター発表31件にて実施しました。

■図書館の地域市民への開放

開学以来、図書館を地域、市民の皆様に開放しています。本年は、図書館報を発刊し、情報提供することで地域貢献を行いました。

■市民公開講座の開催

平成24年・25年に引き続き、市民公開講座を年6回開催しました。第1回8月24日開催41名、第2回8月31日開催102名、第3回9月21日開催97名、第4回10月26日開催105名、第5回11月16日開催80名、第6回12月7日開催58名が参加され、全講座参加27名に公開講座修了証を交付しました。

■銚子ジオパーク

銚子ジオパークとして認定を受けた屏風ヶ浦の地層、犬吠埼の浅海堆積物などを観光資源として活用し、地域住民の郷土愛の育成等を通して地元の中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献します。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施しました。8月2日～8月6日の5日間で延べ482名が受講しました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

今年度は協定を締結した高校との相互関係を一層強化できるよう、出張講義、オープンキャンパス参加は勿論、学生・生徒の研究発表等の開催や高校教員との意見交換会の開催等の働きかけも行っています。今年度は、5校と協定締結を行いました。

■出張講義の拡大と内容の充実

高等学校への出張講義の実施回数を増やしていくことに努め、知の拠点としての大学の機能をさらに発展させていきます。近県の26校にて実施、受講者数は、約800人となりました。

■English Camp (高校生対象) 3月

銚子市内にある高等学校に通う生徒を対象に本学において3月26日、27日の2日間、英語セミナー(会話を中心)を行いました。参加者数は、3校より23名となりました。

国際交流

■Japan Bowl

4月に米国にて行われるJapan Bowlに出席する予定でしたが、欠席しました。

■海外からの研修団受入

| | |
|----|----------------------|
| 4月 | シンガポール交換留学生 |
| 6月 | Great Falls 研修団(小学校) |

| | |
|----|----------------|
| 7月 | アメリカ・ブラジル研修団 |
| | フィンドリ－大仕事体験生終了 |
| 9月 | フィンドリ－大仕事体験生開始 |

■海外へ研修団派遣

| | |
|----|--------------------------|
| 8月 | 台湾へ海外研修団派遣 5名参加 |
| | ライト大学へ海外研修団派遣 3名参加 |
| | フィンドリ－大学へ海外研修団派遣 2名参加 |
| | ブラジル2大学へ海外研修団派遣 1名参加 |

■日本語能力検定試験

本学が日本語能力検定試験会場となりました。
7月と12月に当該試験が実施されました。

教育研究環境

■キャンパス美化

学内のキャンパス美化について、①学生・教職員の美化意識の向上②施設のメンテナンスの実施③アウトソーシング部分の見直しと改善案の検討等について中期目標(4年間)に基づく、単年度目標を定め、キャンパス美化を推進していきます。

また、開学10周年記念整備事業として、渡り廊下設置、歩道整備、モニュメント設置、防災シュミレーションセンターAV機器整備を行いました。

■省エネの推進

学内の省エネについて、①省エネに取り組める体制作り②学生・教職員の省エネ意識向上③省エネ器具、設備等の導入推進等中期目標(4年間)に基づく、単年度目標を定め、ポジティブな省エネも取り入れながら推進しました。

学生の受入

■オープンキャンパス

今年度は、各学部学科のイベントに参加しやすいタームテーブルとしより一層充実した内容となるよう企画しました。また薬学部と危機管理学部が共同で行っていた災害救助演習は、炎天下の元、時間的な理由から看護学部も含め、それぞれの学科内で災害救助に関する内容を展開しました。また、全4回のオープンキャンパスにストーリー性を持たせ、大学のコンセプトを表現します。さらに、各学部棟に学部の受付を設けたり、キャンパスツアーの実施で、大学が分かるように企画しました。参加した高校生が、「この大学で、この学科で、この研究室で、こんな勉強をしてみたい」という夢と希望を持つだけでなく、実現に向けた手伝いができるような内容を企画し、盛況感のあるオープンキャンパスが開催できました。

■広報活動

本年4月に看護学部の開設により、3学部体制となりました。『人を助けたい、という人の大学』をキャッチフレーズに、危機管理の素養を持った人材の育成をアピールしました。国家資格である薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、救命救急士、看護師等の多くの資格取得が可能であること、また消防官、警察官など公務員採用にも強いことや動物や環境、工学技術についても戦略的に前面に出して募集活動の強化を図ると同時に、医療系、薬学系、看護系の3本柱でのチーム医療の人材育成を重点に学生募集を行いました。

内部質保証

■薬学部自己評価

薬学部における教育研究活動の自己点検・評価を行い、その質を検証・保証するために薬学教育評価機構による第三者評価を受審してその結果を社会に公開するとともに、一層の改善・向上を目指します。10/28-29の2日間で訪問調査を受けました。

■大学基準協会中間報告

平成23年度認証評価受審時に第三者評価機関(大学基準協会)より、「助言」を頂いた事項に対し、これまでの大学の取り組みを自己点検・評価し、中間報告書としてまとめ公表します。

その他の取組等

■開学10周年記念事業

開学10周年を記念し下記事業を行いました。

- 1) 記念式典：5月24日(土)
- 2) 10周年記念誌発行
- 3) 記念整備事業
- 4) 記念特別講演会：6月7日(土)

人事・組織

■学外連携ボランティア推進室の設置

大学と外部(地域)との連携等を推進する専門部署を新設しました。地域連携、ボランティア活動の推進、産官学連携の推進、公的研究資金獲得に関することを主な業務とします。

主な行事

| | |
|-----------------|----------------|
| 4月 3日 | 新入生オリエンテーション |
| 4月 4日 ～5日 | 新入生宿泊研修 |
| 4月 6日 | 在校生前期オリエンテーション |
| 4月 7日 | 入学宣誓式 |
| 5月 24日 | 開学10周年記念式典 |
| 5月 31日 | オープンキャンパス |
| 6月 7日 | 開学10周年記念講演 |
| 7月 26日 ～27日 | オープンキャンパス |
| 7月 30日 ～8月9日 | 前期定期試験 |
| 8月 2日 ～6日 | 教員免許状更新講習 |
| 8月 23日 | オープンキャンパス |
| 9月 6日 | 教育進路懇談会(地方) |
| 9月 13日 | 教育進路懇談会(本学) |
| 9月 18日 | 後期オリエンテーション |
| 9月 20日 | オープンキャンパス |
| 10月18日 | CISフォーラム |
| 11月 22日 ～23日 | 青澄祭(大学祭) |
| 12月2日 | 就職懇談会(東京会場) |
| 12月13日 ～14日 | 合同業界研究会 |
| 1月 21日 ～31日 | 後期定期試験 |
| 3月6日 | 就職懇談会(広島会場) |
| 3月13日 | 就職懇談会(大阪会場) |
| 3月 25日 | 学位記授与式 |

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

| 研究科・学部・学科名 | | 入学定員 | 入学者数 | | 収容定員 | 在学者数 | | | | |
|-------------|----------------------------|--------------------------------------|------|-----|------|-------|-------|-----|----|---|
| | | | 留学生 | 社会人 | | 留学生 | 社会人 | 社会人 | | |
| 大 学 院 | 薬学研究科（博士一貫） | 3 | 2 | 1 | 0 | 9 | 3 | 1 | 0 | |
| | 薬学研究科（博士） | 5 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | |
| | 薬学研究科（修士） | 10 | 4 | 1 | 0 | 20 | 10 | 1 | 0 | |
| | 危機管理学研究科（博士） | 3 | 1 | 0 | 1 | 9 | 3 | 0 | 3 | |
| | 危機管理学研究科（修士） | 5 | 9 | 2 | 4 | 10 | 13 | 3 | 5 | |
| | 大学院 計 | 26 | 16 | 4 | 5 | 63 | 29 | 5 | 8 | |
| 学 部 | 薬 学 部 | 薬学科（6年制） | 120 | 142 | 8 | 0 | 770 | 596 | 20 | 2 |
| | | 薬科学科 <small>（募集停止）</small> | — | — | — | — | 0 | 11 | 0 | 0 |
| | | 動物生命薬科学科 <small>（募集停止）</small> | — | — | — | — | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | | 生命薬科学科 | 40 | 23 | 0 | 0 | 170 | 90 | 2 | 0 |
| | | 計 | 160 | 165 | 8 | 0 | 940 | 698 | 22 | 2 |
| | 危 機 管 理 学 部 | 危機管理システム学科 | 100 | 73 | 7 | 0 | 405 | 375 | 72 | 0 |
| | | 動物・環境システム学科 <small>（募集停止）</small> | — | — | — | — | 65 | 40 | 1 | 0 |
| | | 環境危機管理学科 | 40 | 19 | 1 | 0 | 120 | 81 | 3 | 0 |
| | | 医療危機管理学科 | 80 | 88 | 0 | 0 | 325 | 359 | 0 | 0 |
| | | 工学技術危機管理学科 （旧航空・輸送安全学科） | 40 | 9 | 2 | 0 | 165 | 35 | 6 | 0 |
| | | 動物危機管理学科 | 40 | 35 | 0 | 0 | 120 | 96 | 0 | 0 |
| | 計 | 300 | 224 | 10 | 0 | 1,200 | 986 | 82 | 0 | |
| | 学 部 護 士 学 部 | 看護学科 | 80 | 97 | 0 | 0 | 80 | 97 | 0 | 0 |
| | | 計 | 80 | 97 | 0 | 0 | 80 | 97 | 0 | 0 |
| 学 部 計 | | 540 | 486 | 18 | 0 | 2,220 | 1,781 | 104 | 2 | |
| 総 合 計 | | 566 | 502 | 22 | 5 | 2,283 | 1,810 | 109 | 10 | |
| 留学生別科 | | 40 | 25 | 25 | 0 | 40 | 25 | 25 | 0 | |

(単位：人)

■卒業生数一覧

(平成26年度)

| 区分 | 修了者・ 卒業生 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学者 | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|-----|-------------|------------|----------|------------|-----|-------------|-----|----------|
| 大学院 | 10 | 7 | 7 | 100% | 1 | 2 | 1 | 2 |
| 学部 | 328 | 223 | 210 | 94% | 10 | 46 | 21 | 98 |

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成27年3月31日現在）

(単位：人)

| | |
|-------|---|
| 主な就職先 | ウエルシアホールディングス、クオール、国立病院機構、アストラゼネカ、トーアエイヨ、千葉県職員（病院局）、戸田中央医科グループ、東京消防庁、千葉市消防局、札幌市消防局、日立消防本部、警視庁、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、栃木県警察本部、自衛隊、千葉県がんセンター、新日鐵住金、常陽銀行、アビスト、前川製作所他 |
|-------|---|

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| 学長 | 学長代理 | 副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 別科講師 | 教員 計 | 事務職員 |
|----|------|-----|----|-----|----|----|----|------|------|------|
| 1 | 1 | 2 | 64 | 16 | 20 | 13 | 2 | 1 | 120 | 53 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 科目 | 年度 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------------|------------|
| 学納金収入 | 2,861,586 | 2,699,378 |
| 補助金収入 | 789,179 | 357,509 |
| その他収入 | 204,942 | 167,461 |
| 帰属収入合計 | 3,855,707 | 3,224,348 |
| 基本金組入額合計 | △ 33,433 | △ 26,705 |
| 消費収入の部合計 | 3,822,274 | 3,197,643 |
| 人件費 | 2,053,687 | 1,939,684 |
| 教育研究経費 | 1,493,495 | 1,325,989 |
| 管理経費 | 454,822 | 419,495 |
| その他支出 | 7,710 | 5,791 |
| 消費支出の部合計 | 4,009,714 | 3,690,959 |

■施設設備整備

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|---|--------|
| 2号館渡廊下設置工事 | 22,350 |
| マリナキャンパス・本部キャンパス用通路工事 | 3,650 |
| 10周年記念碑 | 4,080 |
| 多目的室新設工事 | 9,888 |
| 看護学部棟 看板取付 | 2,900 |
| NMR装置一式 【補助金交付決定額 18,170千円】 | 28,944 |
| 全学共通学生情報システム [26年度 40,824、27年度 40,176] 27年度完成予定 | 81,000 |
| 看護学部看護学科図書(創設費) | 19,700 |

平成 26 年度 事業報告

岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会からいっそう信頼される高等学校づくりを推進します。



建学の理念と校訓を具体化するための教育活動方針として、(1) 継続的な勉学習慣の定着と確かな学力、(2) 自立的な人格への脱皮と人間的成長を助ける生徒指導、(3) 安全かつ自由な校内雰囲気醸成、を目標に学校運営に教職員一同努力した。

特に重点目標については、

- (A) 財務については、生徒の教育上必要なものへの支出を最優先した。
- (B) 進学実績については、昨年を大きく上回る結果を得られたが、27年度はなお一層の実績の伸びが期待できる。
- (C) スーパー・サイエンス・ハイスクールについては、生徒個々の活躍（発表など）・実績（進学など）はすばらしかったが、その成果を学校全体の取り組み（授業改善など）へと普及・浸透させてゆく必要がある。
- (D) 組織改革については、漸進的ではあるが、簡素化に向かって着実に進んでいる。
- (E) 教育学科の新設については、設置準備委員会の教員、職員の研究と連携によって、無事今春発足し、優秀な生徒を第1回生として入学させることができた。今後、一層の発展を期したい。

岡山理科大学附属高等学校
校長 宮垣 嘉也

教学の充実

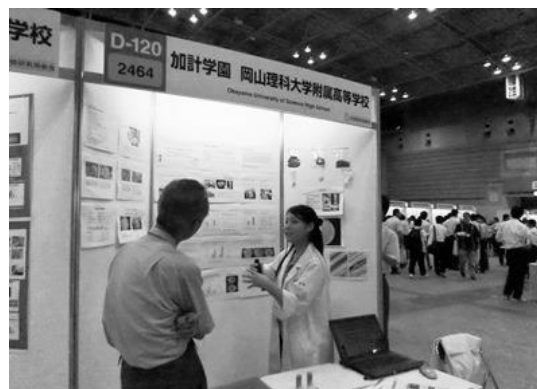
■全日制課程教育学科の設置

平成27年度開設に向けた教育学科が平成26年10月に認可されました。独自のカリキュラムを構築し、小・中学校へのインターンシップ、充実した理科実験など実践的・体験的な専門科目で、将来教師として活躍できる資質を高めます。

■SSH校としての取組

・SSH指定から3年目を迎えた本年は、全国高校生発表会があり、研究成果をポスターで紹介した。選考の上位6校に選ばれ、口頭発表を行い、最高賞に次ぐ審査委員長賞を受賞し、取り組みの成果が現れた。しかし、文部科学省による中間評価ではかなり厳しい結果となり6ランク中4番目であった。

今後は、今以上に全校での取り組みを強化し、5年目の最終評価を次につながるものにしたい。



■学力向上のための組織改革と取り組み

- ・進路指導部に学習指導課を設け、進学実績の向上及び就職試験対策を強化しました。
- ・学校行事を精選し、通常授業に加え、補習や諸検定試験の実施、模試の活用等により学力向上に努めました。

■関連校・提携先との連携による質の高い教育の提供

- ・高校での授業に加え、関連大学や関連専門学校での実習、聴講を体験することで、多面的な理解を深めました。また、より体験的な教育として、学園の提携する施設等（池田動物園・山田養蜂場他）での実習により、興味・関心を深めることができました。

生徒指導

■生徒指導

- ・保健室・教育相談室合同委員会（7月、3月）を開催して教員間の連携を図り、生徒の学校生活支援に努めました。
- ・朝のあいさつ運動を実施し、あわせて生徒の服装、頭髪の乱れなどへの指導を行いました。
- ・毎朝、教員による自転車・バス指導を実施しました。
- ・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導）を年間50回実施しました。
- ・岡北学区学校連絡協議会で情報交換を行い、地域との協力・連携を図りました。
- ・いじめ予防のための人権学習（アンケートや資料を使つての話し合い）を行いました。

■進学指導と就職活動支援

「国公立大学入試対策特別教室の実施」

- ・国公立大学への進学者が増えるよう、学力向上を目指した「国公立大学入試対策特別教室」を5月から2月まで実施しました。英語、数学、国語、物理をそれぞれ約30時間開講し、国公立大学受

験者の約8割の合格率となり、成果を上げることができました。

「長期休暇中や放課後の補習強化」

- ・進学希望者（全学年）対象－5科目
6月 夏季特別講座 延べ703名受講
11月 冬季特別講座 延べ280名受講
- ・進学希望者（3年生）対象－5科目
2月 春合宿 40名受講
10月 センター試験対策補習 36名受講
- ・就職希望者（3年生）対象
7・9月 就職試験対策補習 65名受講

「進路開拓の強化」

- ・より多くの大学訪問を行い、広く情報交換を行い、指定校獲得を目指しました。

「就職指導の強化」

- ・生徒に合わせた就職指導を行い、高い学校斡旋就職率を達成しました。

FD・SD

■教職員への資質向上への取組

- ・特にSSH校を中心に先進事例等を視察・見学し教員の資質を高めるとともに、本校の教育活動の向上に取り組みました。

■授業アンケートによる授業評価

- ・生徒、保護者に授業アンケート等を実施しました。結果を以後の学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めました。

科・コースの取組

■普通科

特別進学、中高一貫、進学理大コースで国公立大学の合格者が28名となり、平成26年3月の19名を越えました。しかし平成23年3月の51名には遠く及ばない状況であり、さらなる努力を続けたい。

■機械科

- ・資格取得の強化のため、徹底した補習（延べ178時間）を実施しました。

主な資格取得状況

- ・ジュニアマイスター顕彰 シルバー8名
 - ・職業教育技術顕彰 7名
 - ・工業教育技術顕彰受賞者 7名
 - ・技術検定（機械保全）2級10名、3級30名
 - ・機械製図検定 12名
 - ・ガス溶接23名、アーク溶接12名
 - ・高所作業車運転技能講習45名
 - ・計算技術検定2級7名、3級1名
 - その他 多数の資格取得
- ・高大連携を推進し、関連大学への進学にも注力しました。
 - ・岡山理科大学 3名、倉敷芸術科学大学1名
 - ・中学校への広報活動の一環として、中学校教員対象の体験型研修会を実施しました。
 - 参加者7名（平成25年度は4名）

■電気情報科

- ・国家資格等の中から3つ以上の資格取得を目指し延べ50時間を実施しました。

主な資格取得状況

- ・電気工事士 4名
- ・低圧電気取扱特別教室 1名
- ・高所作業車運転技能講習4名
- ・アーク溶接4名、ガス溶接1名、
- ・高大連携を推進し、関連大学への進学にも注力しました。
 - ・岡山理科大学 2名、吉備国際大学1名
- ・就職希望者には面接指導等を強化しました。

通信制課程

教育を受ける機会を最大限に配慮し、入学、転入学については、随時可能としています。また、入学した生徒に対し、学年令の区分にはしばられない、生徒の希望、資質、進路に適合したユニー

クなクラス編成を設定しており、生徒のニーズに合った指導を実施しました。

1. 平日コースの充実

小学校、中学校就学時において、何らかの要因で十分な教育の機会と成果を得ることが出来ない生徒に対して、平日、週2日の通学を施しホームルーム、所定の授業、学校行事、各種研修を計画的に実施しました。このことにより、自律・協調・継続という社会性と教養を高める指導を単位制・学年制で充実させることができました。

2. 進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率をさらに向上させるよう努めました。

3. 生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施しました。また、ホームページの内容を充実させ、募集活動に結びました。5月1日の222名の在籍数から、平成27年3月までに245名に増員できました。

生徒募集

■オープンスクール・入試セミナー

オープンスクールでは、本校の概要・設備を中学生・保護者に知らせるとともに、各科・コースの特色を紹介しました。また、授業や実習および部活動等を体験することで本校への関心を高めました。延べ2,000名の参加がありました。

11月29日開催の入試セミナーでは、300名の参加があり、本校の入試制度や出題傾向を重点的に解説し、本校受験への意欲向上に努めました。

■中学校訪問・中学校対象説明会

県内および近隣の中学校の進路担当者に対し、本校の概要・入試制度を紹介し、生徒への周知を依頼しました。また、中学校教員対象体験型研修会も実施しました。

■ 塾訪問・塾対象説明会

年間を通じ、塾を訪問し、情報交換を行いました。本校の現状を報告することで、本校への理解を深めてもらうよう努めました。

■ 地区別説明会

生徒・保護者に対し、地区別に説明会を21回実施しました。直接アピールし、より身近に本校を感じてもらい、理解・関心を深めます。

主な行事

| | |
|--------------|-------------|
| 4月8日 | 始業式 |
| 4月9日 | 入学式 |
| 4月13日 | 入学式（通信） |
| 5月17日 | P T A総会 |
| 6月18～ 19日 | 球技大会 |
| 7月19日 | 第1回オープンスクール |
| 7月20日 | 後援会総会（通信） |
| 7月27日 | 卒業式（通信） |
| 8月31日 | 入学式（通信） |
| 8月下旬 | 部活動オープンスクール |
| 9月23日 | 体育祭 |
| 9月27日 | 第2回オープンスクール |
| 10月3日 | 文化祭 |
| 10月4日 | 文化祭（通信） |
| 11月8日 | 第3回オープンスクール |
| 12月7日 | 卒業式（通信） |
| 12月21日 | 入学式（通信） |
| 1月10日 | 県外生入試 |
| 2月3日～ 4日 | 選抜Ⅰ期入試 |
| 2月24日 | 選抜Ⅱ期入試 |
| 3月1日 | 卒業式 |
| 3月22日 | 卒業式（通信） |

課外活動

○アーチェリー部

- ・全日本アーチェリー選手権大会出場
- ・全日本室内アーチェリー選手権大会出場
- ・全国高等学校総合体育大会出場

- ・J O Cジュニアオリンピックカップ出場
- ・全国高等学校アーチェリー選抜大会出場
- ・全日本ターゲットアーチェリー選手権大会出場
- ・中国高等学校アーチェリー選手権大会出場

■ 男子個人優勝

○アイススケート部

- ・全国高等学校総合体育大会フィギア競技出場
- ・国民体育大会フィギア競技
- 少年男子8位、少年女子3位
- ・西日本フィギュアスケート選手権大会出場
- ・西日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

○空手道部

- ・岡山県高等学校春季選手権大会出場
- ・岡山県高等学校総合体育大会出場
- ・岡山県高等学校秋季選手権大会出場
- ・岡山県高等学校新人大会出場
- ・近県空手道選手権大会出場

○少林寺拳法部

- ・全国高等学校少林寺拳法選抜大会出場
- ・岡山県高等学校新人大会
- 男子規定単独演武2位、規定演舞1位、2位

○剣道部

- ・中国高等学校剣道大会岡山県予選会出場
- ・岡山県高等学校総合体育大会出場
- ・岡山県段別選手権大会出場
- ・全国選抜剣道大会県予選出場

○硬式野球部

- ・春季岡山県高等学校野球大会 ■ 3位
- ・全国高等学校野球選手権大会岡山大会 ■ 準優勝
- ・秋季岡山県高等学校野球大会 ■ 優勝
- ・秋季中国地区高等学校野球大会 ■ 準優勝



- ・第87回選抜高等学校野球大会出場

○サッカー部

- ・岡山県高等学校総合体育大会出場
- ・全国高等学校サッカー選手権大会県予選会出場
- ・岡山県高等学校サッカー新人大会出場

○柔道部（男子）

- ・全国高等学校柔道大会県予選会 ■団体3位

○柔道部（女子）

- ・R S K杯岡山県女子柔道大会
■個人1位×3、2位×2、3位×1
- ・岡山県高等学校総合体育大会
■団体2位、個人2位×3、3位×2
- ・中国高等学校柔道大会 ■個人1位
- ・金光楯県選手権大会 ■個人2位
- ・中国高等学校柔道大会新人大会県予選会
■団体3位、個人1位、3位×2
- ・全国高校柔道選手権予選会
■団体3位、個人1位

○水泳部

- ・岡山県高等学校水泳競技会大会出場
- ・岡山県総合体育大会水泳競技会出場
- ・岡山県高等学校新人水泳競技会出場
- ・中国高等学校選手権水泳競技大会出場

○相撲部

- ・高等学校相撲金沢大会団体出場
- ・全国高等学校総合体育大会団体・個人出場
- ・国民体育大会団体出場
- ・中国高等学校選手権大会
■団体3位、個人80kg未満級3位
- ・中国高校相撲新人大会
■団体3位、個人3位×2

○ソフトテニス部

- ・ジュニアジャパンカップ2014
■U-17男子シングルス優勝
- ・世界ジュニア選手権大会
■U-18優勝
- ・全校高等学校総合体育大会
■個人2位
- ・全国高等学校選抜ソフトテニス大会出場
- ・岡山県高等学校夏季総合体育大会
■男子個人優勝、女子団体5位、女子個人6位

- ・岡山県高等学校秋季総合体育大会
■男子団体優勝、男子個人優勝

- ・全国高等学校私学大会 ■団体優勝
- ・国民体育大会 ■男子2位
- ・国民体育大会少年の部県予選大会出場
- ・岡山県高校春季大会「学年別大会」
■1年生個人3位
- ・全日本選手権ジュニアの部県予選会出場
- ・全国高校選抜大会中国地区予選会団体出場

○卓球部

- ・岡山県高等学校卓球大会春季大会出場
- ・岡山県高等学校新人大会 ■団体ベスト3位

○テニス部

- ・世界スーパージュニアテニス選手権大会出場
- ・中国高等学校テニス選手権大会出場
- ・中国ジュニアテニス選手権大会
■男子シングルスベスト2位
■男子ダブルスベスト2位
- ・全国高等学校総合体育大会出場
- ・全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会出場
- ・全国高等学校選抜選手権大会 ■3位
- ・中国ジュニアテニスウインター大会
■男子シングルス優勝
- ・中国ジュニアテニススプリング大会
■男子シングルス優勝

○陸上競技部

- ・岡山県総合ハンマー投出場
- ・中国高等学校総合体育大会ハンマー投出場

○軟式野球部

- ・岡山県高等学校総合体育大会 ■準優勝
- ・全国高等学校軟式野球選手権岡山大会出場
- ・秋季岡山県高等学校軟式野球大会出場
- ・春季岡山県高等学校軟式野球大会出場

○バスケットボール部

- ・岡山県高等学校総合体育大会男女出場
- ・全国バスケットボール選抜優勝大会県予選会
- ・岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会

- バドミントン部
 - ・岡山県高等学校バドミントン競技秋季大会出場
 - ・岡山県総合体育大会男女学校対抗出場
 - ・岡山県高等学校バドミントン競技新人大会出場
- 男子バレーボール部
 - ・岡山県高等学校総合体育大会出場
 - ・中国私立高等学校男女バレーボール選手権大会
■ 3 位
 - ・岡山県高等学校男女バレーボール選手権大会
- 女子バレーボール部
 - ・岡山県高等学校春季バレーボール選手権大会
■ 準優勝
 - ・国民体育大会バレーボール競技少年女子の部
■ 2 名出場
 - ・全国高等学校バレーボール選手権岡山県予選会
 - ・全国高等学校総合体育大会岡山予選会出場
 - ・中国高等学校バレーボール選手権大会出場
- ハンドボール部
 - ・岡山県高等学校ハンドボール春季選手権大会
■ 2 位
 - ・岡山県高等学校総合体育大会■ 2 位
 - ・中国高等学校ハンドボール選手権大会出場
- 弓道部
 - ・岡山県高等学校弓道新人大会団体・個人出場
 - ・岡山県高校弓道大会団体・個人出場
 - ・岡山県高等学校 1 年生大会出場
- 科学部
 - ・スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表
会（SSH全国大会）■審査委員長賞
 - ・中国四国地区生物系三学会合同大会
■優秀賞
 - ・日本学生科学賞応募■入賞 1 位
 - ・日本生物教育学会全国大会■優秀賞
- 機械研究部
 - ・全国海岸清掃ロボットコンテスト■優勝
 - ・全日本高校ゼロハンカーレース大会■準優勝
 - ・全日本EV&ゼロハンレース in 府中出場
- 応援団部
 - ・選抜高等学校野球大会甲子園応援
- 茶道部
 - ・国際交流■正明高校交流、韓国木洞高校交流
 - ・オープンスクール呈茶席
- 吹奏楽部
 - ・岡山県吹奏楽コンクール■高校小編成の部金賞
 - ・サンクフル コンサート■定期演奏会開催
 - ・選抜高等学校野球大会甲子園応援
- 生徒会執行部
 - 東日本震災支援■写真展、募金活動
 - ・選抜高等学校野球大会甲子園応援
- 製図同好会
 - ・機械製図検定■多数合格
- 通信制ゴルフ部
 - ・岡山県高校選手権大会出場
- 通信制陸上競技部
 - ・岡山県高等学校定時制通信制春季陸上競技大会
■ 5, 0 0 0 m 優勝
 - ・全国高等学校定時制通信制春季陸上競技会
■ 5, 0 0 0 m 4 位
- 通信制卓球部
 - ・岡山県高等学校体育連盟定時制通信制春季卓球
大会出場■男子個人戦 2 位
 - ・全校高等学校定時制通信制卓球大会出場
 - ・岡山県高等学校体育連名定時制通信制部秋季卓
球大会出場■男子個人戦 3 位、女子個人戦 3 位

学生・教職員数

■在生徒数

(平成26年5月1日現在)

| 課程・学科・コース名 | | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|-----------------------|---|------|------|-------|-------|
| 全 日 制 課 程 | 普通科 | 380 | 274 | 1,140 | 897 |
| | 進学総合コース 進学医療コース 特別進学コース 中高一貫コース 進学理大コース 健康・スポーツコース アニメ・デザインコース 生命動物コース | | | | |
| | 普通科 計 | | | | |
| | 機械科 | | | | |
| 電気情報科 | 80 | 54 | 240 | 178 | |
| 全日制課程 計 | | 500 | 357 | 1,500 | 1,160 |
| 通信制課程 (広域) 普通科 | | | | 600 | 222 |
| 総合計 | | 500 | 357 | 2,100 | 1,382 |

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成26年度)

| 区分 | 卒業生 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学希望者 C | 進学者 D | 進学率 D/C | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|-------|-----|------------|----------|------------|------------|----------|------------|-------------|-----|----------|
| 全日制課程 | 411 | 70 | 67 | 96% | 311 | 308 | 99% | 14 | 1 | 4 |
| 通信制課程 | 70 | 5 | 4 | 80% | 50 | 44 | 88% | 14 | 7 | 0 |

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成27年4月1日現在)

(単位：人)

| | |
|-------|---|
| 主な就職先 | JFEスチール㈱、トヨタ自動車㈱、㈱デンソー、ダイハツ工業㈱本社、㈱伊藤園、㈱六機社 菅公学生服㈱、㈱中国フジパン、中四国セキスイハイム工業㈱、旭電業㈱ 他 |
| 主な進学先 | 岡山大学、香川大学、高知大学、徳島大学、鳴門教育大学、鳥取大学、鳥取大学、慶応義塾大学、同志社大学、 立命館大学、関西大学、甲南大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他 |

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| | | | | |
|----|-----|----|------|------|
| 校長 | 教頭等 | 教諭 | 教員 計 | 事務職員 |
| 1 | 4 | 69 | 74 | 19 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 年度 科目 | 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------|------------|
| 学納金収入 | 680,865 | 727,259 |
| 補助金収入 | 341,497 | 383,444 |
| その他収入 | 110,266 | 97,128 |
| 帰属収入合計 | 1,132,627 | 1,207,831 |
| 基本金組入額合計 | △ 34,041 | △ 99,929 |
| 消費収入の部合計 | 1,098,586 | 1,107,902 |
| 人件費 | 1,030,236 | 1,075,014 |
| 教育研究経費 | 287,506 | 321,696 |
| 管理経費 | 146,583 | 120,415 |
| その他支出 | 27,829 | 35,467 |
| 消費支出の部合計 | 1,492,155 | 1,552,592 |

■施設設備整備

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|------------------|---------|
| 新9校舎建物新築工事 | 200,263 |
| 第10校舎2階男子生徒トイレ改修 | 5,201 |
| 第10校舎4階男子生徒トイレ改修 | 4,316 |
| 第10校舎5階男子生徒トイレ改修 | 2,900 |
| 新9校舎新築に伴う機器備品 | 30,000 |

平成26年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

中高一貫校の優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



従来の暗記や単純な演習中心から『自ら主体的に学ぶ力を身に付けると共に、学ぶ喜びを共感できる』生徒の育成を目標にし、受験勉強にとらわれることなく、本当の学び方、学問の面白さ、学ぶ楽しさをも伝えていきました。

また、本校の特色のひとつである中・大連携により、自然教室・天体観測・環境問題などの学習活動を行うことによって知識や技能の深化を図り、国際交流やボランティア活動を通じて幅広い人間性を構築し、論語をとりいれた道徳教育により正しい判断と実践ができる全人的な人材を育てていきました。

加えて、附属高校校訓を下に「立志三風」を定め、その実現のために「生活三則」の指導を教職員一丸となって取り組んでいきました。

また、本校の特色のひとつである中・大連携により、自然教室・天体観測・環境問題などの学習活動を行うことによって知識や技能の深化を図り、国際交流やボランティア活動を通じて幅広い人間性を構築し、論語をとりいれた道徳教育により正しい判断と実践ができる全人的な人材を育てていきました。

立志三風

- 一、慎独・去雑心の志風と守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましよう
- 一、時と守りましよう
- 一、礼と正しましよう

岡山理科大学附属中学校

校長 位田 隆久

教学の充実

■クラス別教育目標

- ・スーパー選抜クラスの全国中学校偏差値60を維持し、岡山県での合格難関校を維持しました。また、自ら進んで学習する「自立学習」を身につけさせることで、難関大学に合格できる学力を養いました。
- ・選抜クラスは、基礎学力の充実をはかり、学ぶことの大切さを身につけさせ、大学進学に対応させました。

■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解し、円滑な学習活動を助けました。

■チューターによる自習教室

通年で週3日開設し、生徒の自学自習能力を向上させました。

■イマージョン教育

イマージョン教育（英会話、芸術科目）を実施し国際性豊かな人材の育成をはかりました。

英会話は1～3年生の全クラス、イマージョン美術はスーパー選抜クラス1・2年を対象に実施しました。

■ 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

- ・1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標としました。
- ・2年在籍生徒の6割以上が4級以上の取得を目標としました。
- ・3年在籍生徒の5割以上が3級以上の取得を目標としました。

教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行い、ほぼ目標に近い結果が残せました。

■ TOEIC Bridge を1・2年生の生徒に実施

- ・2年終了時には180満点中120点をスコアとすることを目標としました。
- ・150点を超える生徒にはTOEIC受験を積極的に促しました。

■ 教員研修会

数学科で『授業改善』を目的に研究授業を1～2回実施しました。

生徒指導

■ 社会性規範育成への取組

社会的なモラルは学校生活においても不可欠です。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導を行い、また話し合いを大切にしました。

■ 服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを目指し、学校生活の様々な場面で呼びかけていきました。

■ 将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭(学習発表会)、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事のほとんどは実行委員が主体性を持って運営していき、また、その中で企画力、実践力を学び、総合的に人間力を高めるようにしていきました。

■ 挨拶の励行

気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるようにしていきました。

■ 情報教育

インターネット等によるトラブルにまきこまれないための情報教育を行いました。

■ 家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしていきました。

■ 教育相談室・保健室との連携

思春期である中学生期を心身ともに健康で過ごすために綿密に連絡を取り、連携を強化していきました。

教務関係

■ 授業・学習関係

- ・1単位当たり年間35時間の授業時間を確保します。行事や休日で抜ける授業は代講日の設定、放課後補習、夏期補充、春期補充で補いました。
- ・自習教室や指名者補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を創設します。部活動より補習等の学習活動を優先させました。
- ・休業期間中の補習は進路指導課と連携し、夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。実施科目は国語、社会、数学、理科、英語としました。部活動より指名補習を優先させました。
- ・1年生では学習成績や本人の希望により、選抜クラスからスーパー選抜クラスへの移動を認めました。

■カリキュラム・シラバス関係

授業(数)中心のカリキュラムから学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成しました。授業で復習が十分できない場合は学習内容を確認する機会をつくりました。従来通り、週36時間授業を実施し、補習で低学力の生徒を指導しました。

■考査関係

成績不振と判定する基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を進路・学習担当とともに行いました。

指導期間中の部活動は原則禁止としました。

■情報発信

学年通信を発行し、生徒の現況を家庭に伝え教育活動への協力を求めました。文書とウェブの両方を活用しました。

生徒募集

■塾との関係の強化

- ・出来るだけ多くの塾との関係を深めるために年間3回程度の一斉訪問の実施をするだけでなく、教職員が担当する塾を決めて細やかに情報交換を行いました。
- ・塾との関係を深めるために情報の共有を行いました。
- ・入試関係の情報を提供するために入試結果説明会を実施しました。

■小学校への情報提供

- ・中学受験が必要な私立小学校の連携強化を行いました。
- ・重点小学校を決め、出来るだけ多くの情報を書面で連絡しました。

■全体への広報

- ・ホームページによる情報提供の迅速化
- ・オープンスクール・理科実験教室

7月20日(日)・26日(土)・8月23日(土)

- ・プライベートオープンスクール(個別学校説明会)
8月25日(月)～8月29日(金)
- ・オープンスクール・学校説明会
9月21日(日)
- ・適性検査対策講座を実施し、本校への理解を深めました。10月18日(土)
- ・入試説明会
10月18日(土)、11月5日(水)
- ・本校生徒の様子を的確に伝える広報リーフレット(ビバ理中)を年間4回発行しました。

主な行事

| | |
|------------|------------|
| 4月9日 | 入学式 |
| 4月10日 | 健康診断 |
| 4月19日 | 授業参観 |
| 5月31日 | PTA総会 |
| 6月10日 | 音楽鑑賞教室 |
| 9月27日 | 体育祭(岡山ドーム) |
| 11月1日 | 爽凜祭(学習発表会) |
| 11月25日～27日 | 修学旅行(東京周辺) |
| 1月23日 | 百人一首大会 |
| 2月2日～4日 | 校外活動 |
| 3月19日 | 義務教育修了式 |
| 3月20日 | 修了式 |
| 3月20日～28日 | 海外研修 |



生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成26年5月1日現在)

| 学校名 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|-------------|------|------|------|------|
| 岡山理科大学附属中学校 | 80 | 57 | 240 | 166 |

(単位：人)

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| 校長 | 教頭 | 教諭 | 教員 計 | 事務職員 |
|----|----|----|------|------|
| 1 | 1 | 18 | 20 | 2 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 年度 科目 | 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------|------------|
| 学納金収入 | 89,135 | 95,149 |
| 補助金収入 | 63,009 | 61,601 |
| その他収入 | 23,495 | 4,054 |
| 帰属収入合計 | 175,640 | 160,804 |
| 基本金組入額合計 | △ 32 | △ 224 |
| 消費収入の部合計 | 175,608 | 160,580 |
| 人件費 | 193,367 | 156,714 |
| 教育研究経費 | 34,224 | 34,857 |
| 管理経費 | 12,964 | 14,734 |
| その他支出 | 0 | 0 |
| 消費支出の部合計 | 240,556 | 206,305 |

■施設設備整備

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|----------------|-----|
| 教室生徒用 机・イス 25台 | 419 |

平成26年度 事業計画

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様にご支持され愛される学校を目指します。



学生一人ひとりの能力を引き出し、社会で即戦力として活躍出来る職業人の育成のために、全教職員が一丸となって教育・指導に当たりました。また、職業実践専門課程

の認可を文部科学大臣より受けました。

1. 専門職業に係る業界・団体のニーズに応えるために、教育課程の編成や実技教育の進化に取り組みました。その具現化として前年度後半より建築、動物看護そしてアクアリウム学科3学科に外郭の有識者を入れた教育課程編成委員会を組織し、多くの進歩的な意見を聴取し、今後の教育課程編成に取り入れることにしました。

2. 学生・保護者の学校に対する満足度を把握するために、保護者アンケートを実施し、教職員が教育実践の参考にしました。

3. 自校の実践的な職業教育にかかる活動等を評価する学校評価を行い、学校運営の改善に活かしました。

4. 教育の質の改善や社会に対する説明責任、学校評価を通じたガバナンス改善に向けて、学校関係者評価委員会を組織しました。年度当初には前年度の学校運営に対する意見と評価を聴取し、学校評価とともに学校関係者評価の結果を公開しました。

5. 学生・教職員の施設・設備や研修に対する要望の一部を実現しました。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

教育の充実

■社会に認められる学校づくり

実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図りました。

文部科学省が推奨する専門学校のあるべき方向性を真摯に受け止めて、本校の繁栄を図る努力を行いました。

■トリミング学科

入学志願者が漸減の一途を辿るトリミング学科において、ペットケアにおける産業・業界のトリマーに対する厳しい注文に応えられるよう、スタッフ組織の再編を行い、高度技術と知識・教養を具えた人材の育成に努めましたが、定員充足には至りませんでした。

■動物看護学科

「動物看護職統一認定機構」のコアカリキュラムを誠実に取り入れるために、必要経費増抑止の維持に努めながら、教育課程編成とその教授の適正化を図りました。動物看護師試験の合格は87%でした。

また3年制課程においては動物看護師の制度化に伴う看護師の公的資格化とともに、現在の動物医療界における高度医療への要望、食品メーカーや大動

物分野等の小動物病院以外への職域の拡大、人と動物の関係を担う福祉分野のニーズにも対応できる人材の養成に務めました。

■長期履修制度

平成26年度から長期履修制度を導入しましたが、年々この制度を利用する入学者が増加してきており、効果があることを確認しました。

研究の充実

■産官学連携の教育

平成21年度より、真庭市と包括教育協定を締結したことを契機に、前年度には平成22年度に実施しました「温泉」をキーワードに「温泉入浴の動物に対する効果」の研究結果を発表しました。今後研究成果と共に、「温泉街の活性化プラン」や「温泉水温を利用した好適環境水による養魚の研究」など産官学連携の在り方を提案しております。数年来の継続として、「動物の温浴効果実験」を健康機器企業と共同で行い、認証結果を報告しました。

行政・関連団体が開催するそれぞれの動物愛護フェスティバルに積極的に関与・参加し、動物愛護啓蒙運動に参画し、県獣医師会や動物愛護団体より感謝されています。

また、平成26年度獣医療学会岡山大会において、本校教員並びに学生が応援スタッフとして活躍し、謝辞を受けました。

学生支援

■修学支援

チューター並びにサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとり学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓蒙等から満足度の高い学生生活のサポートに取り組みました。学生に対して専門教育の重要性、青年期の

精神面や思考等について特別講義を行い、学生には好評を得ました。今後も継続していきます。

■生活支援

・カウンセラーの配属

カウンセラーを定期的に迎え入れ、悩みを抱えた学生の心の問題解決にあたりました。

■進路支援

・就職活動支援

1年次12月の段階での進路希望調査書を基に1月より第一希望の分野を決定していきます。動物系においても一般企業を希望する学生は2月より直ちに就職活動を開始させ、満足度の高い企業への就職を目指すよう指導しました。

また、学生の就職意識啓蒙と就職相談の充実を図るため、就職支援会議を定期的に開催し、就職課と各学科長との連絡・協力を図りました。

関係事業所への訪問、就職先の開拓に努めました。

就職活動ガイダンス

| | | |
|-----|-----|--------------|
| 1年生 | 4月 | キャリア教育講座 |
| | 9月 | 進路選択支援講座 |
| | 11月 | インターンシップ実践講座 |
| | 2月 | 就職活動講座 |
| 2年生 | 4月 | 履歴書、面接指導 |
| | 6月 | 職業理解と労働法規講座 |
| | 7月 | 内定礼状の書き方指導 |

・キャリア教育

これまでの課外時間（5時限）を利用した就職ガイダンスに加えて、ホームルームの時間を利用したクラス単位での就職ミニガイダンスを随時実施し、きめ細かい就職活動支援を行う機会を設けました。また、早期に就業意欲の喚起を図り、就職率がアップしました。

社会連携・社会貢献

■地元小・中学校、県内外の高等学校との連携

小中学校並びに高等学校における課題研究や総合的学習の時間の活用に、本校の教育施設や内容、研究成果等を提供し、公教育としての立場のPRに繋げることができました。

■地域との交流

地域社会に愛され、育まれ、地域と共に教育活動を展開すべく、学生に地域の行事への積極的参加を促しました。特に、バス停に設置するベンチを町内会の方々に学生がプレゼンテーションを行い、町内会との意見交換により、満足できるベンチを創作しました。近く寄贈することになっています。

学生の受入

■資料請求者リストの精査

進学情報誌や進学情報サイトを通じて入手出来る資料請求者リストは年々増加傾向にあります。その後のオープンキャンパスや受験への数には大きな変化は見受けられません。

この請求数の増加は情報サイトの増加・便利化により広範囲かつ複数の請求が容易に行えるようになったものと考えます。

しかしながら本校は一部の学科を除き、地元からの進学者を中心に広報展開していく必要があります。情報サイトの活用を行いながらもより質の高い資料請求者リストの確保が迫られています。

このため、独自サイトからの請求者に対しては密接なアプローチを行い、年間通じてのオープンキャンパス参加者は増加に繋がりました。

■就職情報の活用

専門学校においてはより高い就職実績が求められ、その就職実績の情報においては高校の現場などでは関心が高いものと推測されます。このことから在校

生の就職活動の成果をリアルタイムに出身高校に報告し、進路指導のタイミングにより多くの就職実績を伝えられるよう就職課と情報の共有を行い発信できる仕組みを実施いたします。このことにより、従来訪問できなかった高校に対しても情報の発信が出来るようになり、入学実績校への積極的なアプローチになりました。

■社会人の受験生増加を図る

18歳人口の減少により社会人の受験生を各学科において増加させることに力を入れました。

専門学校の強みでもある資格取得と高い就職率をアピールし、既卒者の再入学を促し、入学者414名のうち33名が既卒者などの社会人が在籍しました。

内部質保証

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員並びに教育補助職員の自己啓発と教育職業意識さらにモラルを上げる目的で、自己点検評価を一昨年に続いて行いました。また各人の組織に対する帰属意識を啓蒙するための研修等を実施し、相互の共通理解と意思の疎通に効果を得ました。

その他の取組

■コスト意識

人件費（特に非常勤講師料の単価の公平・適正化による）削減、教育・研究用消耗品については優先順位を定め、経費の適正な配分と有効活用を促進し、さらに全教職員に対し合理化、光熱水費節約について周知徹底を行いました。その結果、黒字決算となりました。

■職業実践課程の認定

職業実践専門課程は、専門学校（専修学校専門課程）のうち、企業などとの密接な連携により、最新

の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むものを文部科学大臣が認定する制度です。文部科学大臣が認定し、奨励することで、専門学校における職業教育の水準の維持・向上を行っていくことを目的としています。職業実践専門課程は、文部科学省が定めたすべての要件を満たしてはじめて認定されるものです。主な条件は以下の通りです。

1. 企業などが参画する「教育課程編成委員会」を設置して、カリキュラムの編成を行っている。
2. 企業などと連携して、演習・実習などの授業を行っている。
3. 企業などと連携して、最新の実務や指導力を習得するための教員研修を実施している。
4. 企業など学校に関係する外部委員が参画し、学校の評価を行っている（学校関係者評価）。
5. 学校のカリキュラムや教職員について、HPで情報提供を行っている。

以上の要件を全て満たした本校の建築学科（昼間部）動物看護学科及びアクアリウム学科において、平成27年2月に認定の報を得ました。

主な行事

| | |
|-----------------|--------|
| 4月8日 | 入学式 |
| 4月11日 | 授業開始 |
| 6月18日 | 球技大会 |
| 7月18日 ～8月24日 | 夏季休暇 |
| 9月8日 ～12日 | 前期末試験 |
| 9月29日 | 後期授業開始 |
| 12月24日 ～1月7日 | 冬期休暇 |
| 2月27日 ～2月2日 | 後期末試験 |
| 3月20日 | 卒業式 |

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

| 課程・学科名 | | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|---------------|-----------------------|------|------|------|------|
| 工業 専門課程 | 建築学科(昼間部) | 40 | 47 | 80 | 74 |
| | 建築学科(夜間部) | 20 | 16 | 40 | 27 |
| | 福祉住環境デザイン学科 (募集停止) | | — | — | — |
| | 計 | 60 | 63 | 120 | 101 |
| 商業実務 専門課程 | 映像情報学科 (募集停止) | | — | — | — |
| | 計 (募集停止) | | 0 | 0 | 0 |
| 文化・教養 専門課程 | 動物看護学科 3年制 | 30 | 15 | 90 | 48 |
| | 〃 2年制 | 20 | 30 | 40 | 56 |
| | トリミング学科 | 40 | 19 | 80 | 49 |
| | ドッグトレーニング学科 | 40 | 30 | 80 | 64 |
| | アクアリウム学科 | 40 | 36 | 80 | 74 |
| | 計 | 170 | 130 | 370 | 291 |
| 合計 | | 230 | 193 | 490 | 392 |
| 専攻科 | 建築学科専攻科 | 10 | 6 | 10 | 6 |
| 研究科 | 動物系総合学科研究科 | 10 | 15 | 10 | 15 |

(単位：人)

■卒業者数等一覧

(平成26年度)

| 区分 | 卒業者 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学者 | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|------------|-----|------------|----------|------------|-----|-------------|-----|----------|
| 岡山理科大学専門学校 | 200 | 161 | 156 | 97% | 26 | 24 | 1 | 3 |

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

| | |
|-------|---|
| 主な就職先 | 岡山県庁、岡山市役所、(株)あい設計岡山支社、(株)荒木組、蜂谷工業(株)、イオンペット(株)、京都中央動物病院、倉吉動物医療センター・山根動物病院、(社福)兵庫盲導犬協会、アダチペットショップ、ペットショップヤマモト(4店舗)、(公財)岡山県動物愛護財団、ペットワールドアミーゴ(2店舗)、(株)海遊館、太子町立くじらの博物館、岡山中央魚市(株)(岡山市中央卸売市場)、その他118社 |
|-------|---|

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| 校長 | 副校長 | 教員 | 教員 計 |
|----|-----|----|------|
| 1 | 0 | 11 | 12 |

| 事務職員 |
|------|
| 11 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 科目 | 年度 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------------|------------|
| 学納金収入 | 338,213 | 357,320 |
| 補助金収入 | 252 | 181 |
| その他収入 | 5,960 | 6,729 |
| 帰属収入合計 | 344,424 | 364,230 |
| 基本金組入額合計 | △ 906 | △ 4,307 |
| 消費収入の部合計 | 343,518 | 359,923 |
| 人件費 | 216,322 | 221,201 |
| 教育研究経費 | 72,254 | 74,007 |
| 管理経費 | 26,346 | 29,984 |
| その他支出 | 2,010 | 1,303 |
| 消費支出の部合計 | 316,932 | 326,495 |

■施設設備整備計画

(単位：千円)

| 事業名 | 金額 |
|----------------------------|-------|
| 第1校舎1階非常勤講師控え室兼会議室への改修工事一式 | 1,500 |
| 第1校舎1階製図室の製図台2台増 | 300 |
| 第3校舎1階トリミング室給湯設備一式 | 1,100 |

平成 26 年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みます。また同時に、少子高齢社会を迎えた今日において、そのニーズに

的確に応えられる人材の養成に取り組みました。

2. 研究面については、教員の研究活動を積極的にサポートし、教員個々のスキルアップを図り、学生教育の充実に寄与しました。

3. 教育活動、研究活動並びに地域貢献の更なる充実に向けた改善・改革を推し進めました。

4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学の充実

■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストを養成する教育機関として、法令に準拠した科目に加え、独自の科目を配置し、体系的かつ特色あるカリキュラムを構築しました。

保健看護学科では、全国的にも有数な4年制の統合カリキュラムを採用し、卒業と同時に看護師に加え保健師の国家試験の受験資格が与えられます。また同時に高度専門士の称号が付与され、大学院への受験資格も得ることができます。

リハビリテーションの専門職である理学療法士、作業療法士を養成する理学療法学科、作業療法学科では、保健看護学科と同様に4年制を採用し、卒業と同時に国家試験の受験資格と高度専門士の称号が付与され、大学院への受験資格も得ることができます。1年次には社会人として必要な素養を身につけるための教養科目を数多く配置し、リハビリテーションに関する科目は、基礎分野から専門分野へ、座学から演習、病院での臨地実習へと段階的に学べる体系的なカリキュラムを構築しました。また、理学療法学科では本校独自のスポーツ分野のアスレチックリハビリテーション学を取り入れ、機能訓練に加え機能アップなどの学習も行いました。一方、作業療法学科では人の個別性に着目し、人の存在について学ぶ科目や訪問リハビリテーションなど病院以外で行われているリハビリテーションについて学ぶ科目を増やし、より実社会に則した授業を展開しまし

た。

介護福祉学科では、2年制を採用しています。卒業と同時に介護福祉士の国家資格を取得できることに加え、日本レクリエーション協会の認定校として、レクリエーション・インストラクターの資格も取得することができます。

■非常勤講師の招へい

保健・医療・福祉の最前線で行われている最新の医療を学ぶために第一線で活躍されている医師、看護師、療法士などのスペシャリストを招き、専門分野の授業を行っています。新たなカリキュラムや講師陣の陣容が決定する3月には専任教員と非常勤講師が一堂に会す連絡会議を開催し、より充実した講義内容とするために関連科目の講義内容のすり合わせや教育方法についてのディスカッションを行いました。

■FD推進

多様な学生に対応するための教育力向上を目指しています。具体的には、教員自身で行う自己点検評価、生徒による授業アンケートの実施(前期、後期)、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会への参加、論文発表、セミナーへの参加を促進しました。

研究の推進

■研究活動の推進

本校では、教員による研究活動を推進しています。保健・医療・福祉のスペシャリストを養成する学校としての主たる目的は教育活動であることは言うまでもありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要と考えます。そのため、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えサポートしています。これらの成果として、

学会発表や論文投稿の実績を積み上げています。また、臨床研究を行う際には、必要に応じて倫理委員会を開催し、研究計画が倫理的に問題ないことを確認した上で、研究活動を許可する体制を構築し実施しました。

■学内紀要への積極的投稿

研究成果を発信するために紀要への投稿を奨励しています。例年、2年に1回のペースで発行していますが、昨年に引き続き今年度も発行致しました。

学生支援

■修学支援

- ・入学前教育の実施

早期に合格した生徒を対象に入学前教育を実施しました。高校での学習の妨げにならないよう配慮しながら、入学後スムーズに授業に参加できるよう導入教育を行いました。導入教育には十分に吟味したテキストを採用し、入学までの間、継続して学習する習慣をつけるため、定期的に課題を提出する方法を採用しました。学科によっては本を読む習慣が乏しい現状を踏まえ、読書も課題の一つとしている場合もあります。

- ・リメディアル教育の充実

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行いました。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しました。

■国家試験対策の強化

- ・外部専門家による学習習慣に関する研修

教育学の専門教員を招き、入学後早期から効率的な学習方法や学習習慣を身につけることの大切さについての授業を行いました。

- ・学習スペースの提供

生徒がいつでも自主学習ができるよう、自習室を始め、図書館、学生ホール、カフェテリアなどを開放しました。

・朝学

保健看護学科では、4年生を対象に後期から朝学を実施しています。1時限目が始まる1時間前に全員が登校し勉強を行います。これは、国家試験が行われる時間帯に最大限の力を発揮できるよう夜型になりがちな生活習慣を改善し、朝型するために行いました。

・基礎科目の強化

医療系の専門学校では人体の骨格、筋肉の名称や働きなど必ず覚えなくてはならない基礎となる科目があります。専門分野の学習に入る前に課題や補習などにより徹底した指導を行いました。

■生活支援

・チューター、コーディネーター制の導入

保健看護学科では、担当を決め個別指導を行うチューターと、クラスの担任の役割を担うコーディネーター制を導入し、学生の相談や指導に当たっています。また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入しきめ細かなサポートを実施しました。

・カウンセリングの実施

外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行っています。カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設け、相談を受けやすい環境を整備しています。

・スクールバスの運行

スクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間を運行しています。平成25年度に引き続き、動く広告塔として運行を継続しました。



■就職支援

・求人情報の開示

教員室前に、全国各地から届いた求人情報を開示し、生徒がいつでも閲覧できる環境を整えています。

・個別就職相談

各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。

・就職懇談会（保健看護学科）

保健看護学科では、複数の既卒者を招き、卒業前と就職後の意識の変化、仕事での苦勞話しややりがいなどに関する講話と在校生との意見交換会の場を設け、早い段階での就職に関する意識付けを行いました。

■その他

・国際交流の実施

学校法人加計学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、同 フィンドリー大学、ブラジル パラナ・カトリナ大学、同 パラナ連邦大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。



主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験としてキャラクター弁当作りなどを行い、最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力の一端を経験しました。

・海外研修の実施

9月3日から約2週間、アメリカ研修を実施しました。



引率教員2名を含む12名で研修団を結成し、1週間のシェネンドア大学（ウィンチェスター市）での研修とホームステイから始まり、後半はワシントンDCの視察、西海岸へ渡りディズニーランド、ティファナ、グランドキャニオンの観光など日本では味わうことのできないさまざまな貴重な体験を行いました。

・教育・進路懇談会の実施

学校と家庭を結ぶ架け橋として「教育・進路懇談会」を実施しました。1、2年次生を対象とした懇談会を9月に、3、4年次生を対象とした懇談会を11月に行い、学校と保護者がそれぞれの環境下での学生の現状について連絡を取り合うことで、学生の変

化を早期に感じ取り、学校、保護者と連携した適切な指導に役立てました。

社会連携・社会貢献

■地域貢献の推進

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくってはならない存在となるべく貢献しました。

■公開講座の実施

毎年3回公開講座を実施しています。玉野市民等の熱意に対して医療・保健・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。



今年度は、「いきいきとした生活を目指して」をテーマに、10月18日の校長による基調講演を皮切りに、転倒予防、腰痛撃退、自分らしい生活、脳科学など11月15日まで計3回、5つの講座を実施しました。「分かりやすい。ためになる。」などの意見が多く寄せられました。毎年この講座を楽しみにしている多くの方々のために、今後も継続して実施します。

■玉野市内の行事への参加

玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバ

ル(5月)」に参加しました。本校が出展した健康増進体験ブースは多くの来場者でにぎわい、参加者は血圧、脈拍、肺活量などの測定や脳年齢チェック(作業療法学科)などの結果を真剣に見入っていました。



また、玉野の中心地で行う盆踊り大会「かつからか祭り(8月)」では、今年度は100名を越える教職員が踊り連に参加し、夏の暑さを吹き飛ばすほどの勢いでお祭りを盛り上げました。



さらに、学友会主催の学校祭「優勇祭(10月)」では、前夜祭と優勇祭の二日間、日頃の厳しい勉強を忘れ、学生や来場者で盛り上がりました。



1月に開催する「鏡開き」に市民団体等の参加を呼びかけ、多くの市民が来校してもらえるようにし

ました。

■近隣自治会との協定締結(平成26年10月29日)

高潮、津波などの大規模災害の危険が目前に迫る中、学校近隣の広田団地自治会からの要望を受け、本校を一時避難場所としての使用に関する協定を締結しました。10月29日には双方の代表による調印式を行いました。



■加計学園の設置校としての連携

加計学園が推進する地域を越えた連携協力活動に積極的に参加し、地域を越えた社会貢献を行いました。

内部質保証

■自己点検・評価

・教職員のFD・SD活動

加計学園本部主導による自己研鑽、検証制度を実施している。PDCAサイクルによる自己点検・評価を実施しました。

また、研修会への積極的参加も促し、個々のスキルアップを図りました。

・授業アンケート

前期、後期の授業において学生による授業アンケートを実施しました。アンケート項目は、講義をする側を一方向的に評価するだけでなく、学生自身の授業に向かう姿勢も自己評価する項目もあり、双方向で検証ができる内容となつて

います。

■教員授業観察の実施

- ・教育力向上への取り組み。

後期の授業において、専任教員を対象とした授業観察を実施しました。授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、事務長などが観察しました。

工夫されている授業については、広く紹介し、工夫が必要な場合は、直接該当者に伝え、教育力の底上げを図りました。

学生の受入

■多様な入試制度の実施

平成 25 年度に引き続き、年内、年明け問わず多様な方々が受験できるよう入試回数を増やし、地方会場を改編し、社会人入試の複数化など、多様な入試制度を実施しました。

■職業訓練生委託事業の実施(介護福祉学科)

雇用対策の一環として平成 25 年度に引き続き岡山県が実施する職業訓練事業(介護福祉士養成)の受け入れ先となり、介護福祉学科へ訓練生を受け入れました。

■入学金減免制度実施

- ・指定校入試で合格した学生の入学金の一部を減免する制度を継続しました。
- ・玉野市内の高等学校出身者で、AO入試、特別入試で合格した学生への入学金の一部を減免する制度を継続しました。

■看板設置

玉野市を訪れた方々へ玉野市内にある唯一の高等教育機関であることをアピールするためにおひざ元の宇野駅と宇野線に乗り換える拠点である茶屋町駅に看板を平成 25 年度に引き続き設置し、広く認知度

向上に努めました。

■オープンキャンパスの実施

平成 26 年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を継続させ高校生に魅力あるイベントを実施しました。



また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し送迎のためのバスを運行しました。

■テレビCMの実施

本校の認知度を向上させ、一人でも多くの方に本校に足を運んでもらうために、オープンキャンパスの告知を、5月から8月の期間に集中的にテレビCMを放映しました。

人事・組織

■適切な人材の確保、配置

養成校としての責務を果たすために適性にあった教職員を確保し、必要に応じて適切に配置しました。

また、教育効果を最大限に考慮し、実務のスペシャリストを講師として迎え入れ、充実した講義の実施に努めました。

課外活動

■サークル活動の支援

学友会活動の奨励、多面的な活動支援の実施
本校は、専門学校としては稀な広いグラウンド

と体育館を有しています。これらの設備を学生が活用できるよう部活動を奨励しました。その成果により、岡山県の専門学校各種学校交流スポーツ大会で総合優勝の栄誉を手に入れました。



(主な戦績)

バレーボール 男子、女子 優勝

軟式野球 優勝

バスケットボール 女子 優勝

ソフトテニス 優勝、準優勝、3位独占

卓球 男子 優勝、準優勝 女子 準優勝

サッカー 準優勝

主な行事

| | |
|-----------|--------------------|
| 4月4日 | 入学宣誓式 |
| 5月10日 | 宣誓式(保健看護学科) |
| 5月24、25日 | たまの・港フェスティバル |
| 5月25日 | 第1回オープンキャンパス |
| 6月2日 | AO入試エントリー開始 |
| 6月22日 | 第2回オープンキャンパス |
| 7月4日 | 国際交流(外国人研修団受入) |
| 7月19日 | 第3回オープンキャンパス |
| 8月2日 | 第4回オープンキャンパス |
| 8月2日 | 玉野まつり |
| 8月30日 | 第5回オープンキャンパス |
| 9月6日 | 教育・進路懇談会 |
| 9月3日～15日 | 海外研修(アメリカ合衆国) |
| 9月27日 | 第1回入試相談会 |
| 10月1日 | 宣誓式(介護福祉学科) |
| 10月11日 | 特別入試 |
| 10月24日25日 | 優勇祭(学校祭) |
| 11月8日 | 推薦入試Ⅰ期 |
| 12月7日 | 推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅰ期他 |
| 12月13日 | 第2回進路・入試相談会 |
| 12月19日 | 壮行式(理学療法学科・作業療法学科) |
| 1月24日 | 一般入試Ⅰ期 |
| 2月20日 | 入学予定者オリエンテーション |
| 3月3日 | 一般入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期 |
| 3月7日 | 非常勤講師連絡会議 |
| 3月10日 | 卒業証書授与式 |
| 3月中旬 | 第6回オープンキャンパス |
| 3月20日 | 実習指導者連絡会議 |
| 3月23日 | 一般入試Ⅲ期他 |

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

| 課程・学科名 | | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|-------------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 医療専門課程 | 保健看護学科 | 40 | 40 | 160 | 161 |
| | 理学療法学科 | 40 | 40 | 160 | 156 |
| | 作業療法学科 | 40 | 22 | 160 | 103 |
| | 計 | 120 | 102 | 480 | 420 |
| 教育・社会福祉専門課程 | 介護福祉学科 | 40 | 18 | 80 | 35 |
| | 計 | 40 | 18 | 80 | 35 |
| 合計 | | 160 | 120 | 560 | 455 |

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成26年度)

| 区分 | 卒業生 | 就職希望者 A | 就職者 B | 就職率 B/A | 進学者 | 退学者・ 除籍者 | 休学者 | 留年者 ※ |
|------------|-----|------------|----------|------------|-----|-------------|-----|----------|
| 玉野総合医療専門学校 | 89 | 77 | 77 | 100% | 0 | 35 | 11 | 26 |

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

| | |
|-------|---|
| 主な就職先 | 岡山大学病院、鳥取市職員（保健師）、玉野市職員（保健師）、岡山県精神科医療センター 香川大学医学部附属病院、鳥取医療センター、福山リハビリテーション病院 他 |
|-------|---|

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

| 校長 | 副校長 | 教員 | 教員 計 | 事務職員 |
|----|-----|----|------|------|
| 1 | 2 | 28 | 31 | 8 |

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

| 科目 | 年度 26年度 決算額 | 前年度 決算額 |
|----------|-------------------|------------|
| 学納金収入 | 479,260 | 499,577 |
| 補助金収入 | 24,083 | 27,602 |
| その他収入 | 20,645 | 22,282 |
| 帰属収入合計 | 523,988 | 549,462 |
| 基本金組入額合計 | 0 | △ 2,687 |
| 消費収入の部合計 | 523,988 | 546,775 |
| 人件費 | 370,487 | 372,237 |
| 教育研究経費 | 114,674 | 140,646 |
| 管理経費 | 42,105 | 42,898 |
| その他支出 | 798 | 126 |
| 消費支出の部合計 | 528,063 | 555,907 |